

第8回あづみのパークコミュニティ会議概要

1	日 時 平成30年6月25日(月) 午前10時30分から正午まで
2	会 場 国営アルプスあづみの公園管理センター2階会議室
3	出席者 安曇野穂高温泉旅館組合 組合長 辻谷 洋一 安曇野ペンション協議会 理事長 薄井 満介 安曇野市観光協会 副会長 太田 謙 岩原の自然と文化を守り育てる会 会長 百瀬 新治 掘金岩原区 代表区長 齋藤 正廣、会計担当 山口 栄司、公民館公園担当 森下 盛男 穂高牧区 区長 寺島 啓二 安曇野案内人倶楽部 代表 等々力 秀和 国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所 副所長 大里 弘人、公園課長 篠遠 富恵 国営アルプスあづみの公園管理センター 管理センター長 緒方 京一、企画広報課長 内田 利幸 安曇野建設事務所 所長 飯森 正敏、維持管理課長 西山 広一、維持管理担当係長 宮澤 俊吉 鳥川溪谷緑地 環境管理事務所 所長 佐々木 俊之 長野県都市・まちづくり課緑化信州フェア推進室 主任 大村 一 安曇野市 商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当係長 下里 強 教育部 文化課 主査 水谷 優美 都市建設部 部長 横山 正、都市計画課 課長 久保田 薫 課長補佐 中田 徹、主査 御子柴 昌善
4	会議概要 作成年月日 平成30年7月18日
協議事項等	
I. 会議の概要	
1	開会
2	あいさつ
3	自己紹介
4	会議事項
(1)	国営アルプスあづみの公園からの情報提供
(2)	県営鳥川溪谷緑地からの情報提供
(3)	情報提供
(4)	全国都市緑化信州フェア開催に合わせたスタンプラリーについて
(5)	意見交換
(6)	その他
5	閉会
II. 議事の概要	
1	開会
	薄井副会長
2	あいさつ

辻谷組合長

おはようございます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。限られた時間の中での会議となりますので、慎重審議をよろしく願い申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大里長野国道事務所副所長

みなさんおはようございます。只今ご紹介いただきました長野国道事務所の大里と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうから、あづみのパークコミュニティ会議というタイトルである資料があると思いますけれども、あいさつと言いましても、どうしても話すだけで、こっちは話せばなしということになってしまうかなど。いろいろあいさつ何か言おうかなしようかなと思って、メモしていたんですけれども、メモするんだったら出しちゃえばいいじゃんと思って作った資料でございます。これに沿った話を少しさせていただきます。

わたくし昨年の4月から公園のほうに参りまして、1年2か月3か月ですか、やっておりますけれども、それ以降の都市公園をめぐる状況ということで、2つ3つお話ししたいと思います。

ご存知のように、1つ目は都市公園法の改正でございます。全国的に見れば都市公園の量はある程度整備されてきたということで、これからその整備された公園のその機能を如何に最大限引き出すかというステージに変わってきている、ということです。それはまあ、綺麗な言葉ですけれども、実態としては、整備費あるいは維持管理費といったものは過去7年間ほぼ横ばいという状況です。今後ご存知のように、大磯の庭園ですとか開園整備で公園が増える。それから、管理面積が当然増大していく訳です。それから世間に言われているように、老朽化も進行していくということで、コストとしてはこのままでは上がり続けるという状況です。ということで、そのコストの上昇を抑えつつ、公園の機能を引き出すということで、民間資本を誘導するという方向性が法律で定められました。ということで、Park-PFI制度の創設がされております。今までそういった公園の中で、例えば飲食店ですとか物販施設ですね。そういったものの占有許可の期間が10年だったものを、10年ではなかなか事業者も参入しづらいだろうと、初期投資コストを回収するためには、20年位許可という期間を設けなければいかんということで、20年という流れに落ち着いた改正の内容です。これとアルプスあづみの公園で考えますと、正直なところどうでしょうか。収益事業成り立つでしょうか。なかなか難しいですかね。これは実際に皆さん民間の事業者の方に聞いてみないとわからないことですが、そのためにもアンケートはしていこうかなという風に思っています。私たちの常識では考えられないようなアイデアが出てくるかもしれません。そういったことは一応トライはしていこうという風に思っています。でも、そもそも改正の背景というか、考え方は何かというと、より一層いろいろな人に公園を使ってもらおうということなんだろうという風に思っています。こちらとして、公園として、こんなイベントやります、こんな花見頃です、ということで呼び掛けて来てもらう公園から、そういう公園の機能も必要なんですけども、プラスもっと使ってくださいと、いろんな団体の皆さんに使ってくださいということをお願いしていくことが必要なのかなという風に思っています。ということで、先程言いましたけれども、民間の方々にアンケートを行っているようなアイデアを出していただくということを考えています。

2つ目です。入園料金の改定、今年の4月から入園料金の改定を施行しております。背景としましては、全国の国営公園の来園者数を2020東京オリパラの年度ですけれども、4800万人、今から20%増ですけれども、という目標を掲げています。その目標と、それから先ほど言った公園の経営管理、みなさんいろんな使い方してくださいということと、国営公園ですので、入園料の料金は税務署に入っているんですけども、

その歳入が落ち込んではいけないということで、そこが最大限計ることができる入園料ということで改定をしております。小中学生無料ですね、大人の入園料はその代りすみませんが410円から450円に40円値上げさせていただきました。それからこの公園に特に関連することですけれども、2日通し券、あと全国的に公園の共通パスポートといったものの適用範囲を拡大しております。当公園の状況はどうかということですが、今年4月から始まったのですが、5月のアンケート結果の状況を見ますと、1か月しか経っていませんから、料金改定知っていたという人は約2割、それから料金改定良いんじゃないのという人たちは7割近くの方から支持をいただいている。それから、先ほど言った2日通し券、これの利用者、1日のうちで両公園、大町・松川地区とこっちの堀金・穂高地区を1日でまわることも勿論オーケーなんですけれども、1日ずつ2つの公園をまわるということもオーケーなので、1日ずつまわっている人たちはどれぐらいいるのかというと、約2割から3割の方々が1日ずつ堀金・穂高と大町・松川を利用されているということです。1年間の試行、ためしにやってますということなんですが、できればもう少し延長してもらえませんか、ということをごこれから本省のほうに話をしていきたいなと私個人的に思っております。1年間の状況だけだと、天気の良し悪しも影響しますし、料金改定の効果っていうのがどこまであったのかよくわからないんじゃないかなということで、可能ならば延長してくださいという話をしていきたいと思っています。それから、こういった2日通し券とか料金改定、特に夏休み以降ですね、県外からのお客さんが6割から7割近くいらっしゃる訳ですけれども、そういった方々に向けたPRといったものをしていきたいということで2日通し券ですと当然どこか泊まんなきゃいけないということになりますので、ここの周辺、大町の方かもわかりませんが、地域のみなさんにも還元できるんじゃないかなと考えているところでございます。

あと、緑化フェアとかいう話は丁度事務局の方からあると思うんですけれども、ツキノワグマとかニホンザルの対応です。クマも今月1回堀金・穂高の方で確認というか目撃をされたということもあります。大町松川の方では園内の方に入ってしまったクマがいて、それは先週捕獲をして奥山に放獣したということでございます。4年に1度の当たり年と言われてますけれども、そこのところはいろいろ情報を共有しながら対応していきたいと思っておりますので、そこのところもよろしくお願ひしたいと思っております。すみません、1ページでやりながら長々喋りまして。申し訳ありませんけれども、これであいさつと代えさせていただきます。よろしくお願ひします。

飯森安曇野建設事務所長

皆さんこんにちは。安曇野建設事務所所長飯森正敏でございます。まずはじめに、今日お集まりの皆様には日頃から私ども安曇野建設事務所に対しまして格別のご支援ご協力いただいておりますことを誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

昨年の烏川溪谷緑地ですね、来園者はおかげさまで3万1千人強ということで、多くの方が楽しんでいただけたと、このように思っております。いよいよ緑化フェアが1年を切ってきたということでございますけれども、ここの国営公園の堀金・穂高地区で8万人強、それから私どもの烏川溪谷緑地では7千人は来るだろうというのが実行委員会の予測でございますけれども、私たちとすれば万全の体制でお客様をお迎えして満足して帰っていただける。このようなことにこのような場も通じまして取り組んでいくというようなことなのかなと、こんなことを思っております。そんな中で、今建設事務所のフェアに向けた取り組み若干ご紹介申し上げたいと思っておりますが、まず1つは道路管理者の立場での取り組みでございます。なかなか経営予算は厳しくて苦戦しておりますけれども、安曇野インターから国営公園ま

でのアクセス道路、全部はできませんが舗装の打ち替え、植樹帯の剪定と草刈を今年から始めております。また、すぐそこですけれども、烏名橋の南の交差点、非常になかなか地元の方でも迷うというところですが、現在改良工事を行っております。できれば12月までにこれを叩き上げたいということで、フェアに間に合わせたいという風に思っております。また、公園につきましては、大里所長さん今ありましたけれども、いわゆる施設も老朽化してきているということで、園路や防護柵を再整備、それから水辺エリアですが、旧穂高町側の方にも駐車場を新設を舗装かけたり、それから森林エリアですが、今砂利になっている駐車場の所これも舗装をかける、こんなようなことをしてフェアに向けて対応していきたいと思っております。また、公園のエントランスの県道の豊科大天井岳線4車線の部分ですけれども、南安曇農業の生徒さんにですね、花の種とプランターを買ってお渡しして育ててもらってそれをフェアの時には歩道の方に並べて、何か奥には催し物があるんじゃないかと通行する皆さんに少し発信をしたいということを考えて、10月位には実際に苗を作ってもらうところまで打ち合わせは進んでおります。また、草ボーボーになっております植樹帯ですが、これは柵に変えてインターロッキングを打ってこちらも秋には植樹を行って入口にふさわしいような道路にしていきたいと、こんなことを進めております。このような会議を通じまして、皆様方と情報の共有或いは意見交換を行う。こんなことがこの地域の観光それから振興の一助になっていくと、このように思っております。そのためには、私どもの公園も兎に角いっぱい使っていただきたい、ということをお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうか今日はよろしくお願いいいたします。

横山安曇野市都市建設部長

皆さんこんにちは。都市建設部長の横山でございます。日頃は、安曇野市政に関しまして、ご理解とご協力をいただいていることをこの場を借りて御礼を申し上げます。本日は第8回目の会議ということでお忙しい中、ご出席いただき大変ありがとうございます。

さきほど建設事務所長さんのご挨拶にもありましたけれども、いよいよ都市緑化信州フェアが来年の4月から始まるということで、すでに1年を切って来年の今日はすでにフェアが終わっている時期になります。市としましては市独自にですね、サテライト会場・スポット会場を運営する予定としております。3会場の国営公園、県営烏川溪谷緑地とも連携が取れるような企画を考えているようなところでございます。市独自の実行委員会も組織されまして、この6月1日に事業計画や予算についてご承認をいただいているところでございます。これから具体的に実行に移していく訳でございますが、市民の皆様それから多くのご協力をいただかなければなりません。また、みなさんからもアドバイス等いただきながら、安曇野市を訪れていただく観光客の皆さんに、よかった、満足した、また来たいと思っただけのような取り組みにつなげてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいいたします。

この会議もですね、2つある公園から周辺でそれぞれ営みや生活をされているみなさんが情報交換する会議でございます。来年緑化フェアはですね、より多くの集客を見込める機会だと思っておりますので、今年度は今までより、より一層情報交換・連携を密にして、来年のフェア成功に向けて皆様からご協力いただければと思っております。本日は短時間の会議ではございますが、忌憚のないご意見をいただきながら、有意義なものにしていただければと思っております。よろしくお願いいいたします。

3 自己紹介

会長から座席の反時計回りで自己紹介。配布資料の確認。

4 会議事項

(1) 国営アルプスあづみの公園からの情報提供

ア 国営公園の利用状況（長野国道事務所 篠遠公園課長）

2ページ目の上側ですが、あづみの公園全体の入園者数の推移を印刷させていただいております。29年度につきましては43万3千人であり、約0.6%の減です。減少の割合は低いですが、堀金・穂高につきましては、微増という、ほぼ昨年と同様で若干プラスという状況でございます。

2ページ目の下の段ですが、4月の入園者数につきましては特に、チューリップの早期開花ですとか、広域的なテレビ放映、新聞掲載等ということで、約2倍の201.4%の増加。6月20日までの入園者数につきましても、613%増という状況でございます。

ページを飛ばさせていただきまして、8ページをご覧ください。4月・5月の入園者等の動員ということで、8ページ下の段で説明をさせていただきます。特に4月については、菜の花の開花が少し早かったというのと、チューリップのほうで認知度が上がってきたという状況でございます。また、下の段の入園料金の改定等もありますが、NHKのロボットカメラの設置がチューリップ、それからチューリップが終わった後に菜の花の方に移動して、NHKの関東甲信越のほうでも2回にわたって放映された。それから、左側の方の中日新聞のゴールデンウィークの5月3日に1面で掲載されたというようなところが大きいのかなと思います。

また、ページのほう戻っていただきまして、3ページ目をご覧ください。3ページ目の下の段です。AACRのアルプスあづみのセンチュリーライドなのですが、こちらのほうにつきましても棒グラフの年度別で見ますと、29年度が倍の、これは今まで5月に開催してきたセンチュリーライドを4月の桜と5月の緑ということで倍増してございます。今年度につきましては、あづみの公園堀金・穂高地区スタートで120km、80kmの3組新たにこちらからスタートしたということで、トータルで3800人くらいとなっております。特に、この中で県外の方が89.9%、プラス海外の方が0.3%、合わせて約9割の方が県外から。合わせまして今年度につきましては、チャリティ募金の参加者に1万円のチャリティをいただいて、それ地域貢献等をしていただくことで、写真の中間部分が阿部知事へ県の自転車道の整備ということで70万円の寄付をしております。それから、一番下のチャリダー、これはNHKのBSの土曜日の番組なのですが、こちらのほうで全国で放映された。それにつきましては、次の5ページをご覧ください。なっていたらと思います。

5ページ目の下の段ですが、NHKのチャリダーで5月29日、それから長野につきましては5月の25日と29日にNHKの総合の方で放送がされている状況です。

6ページですが、6ページの下段が5月の20日に行われました、緑のセンチュリーライドです。こちらのほう下の段の右上ですが、こちらの方であづみの公園穂高口ゲートのスタートの写真でございます。こちらの方では丸山会長にもスターターとして参加をしていただきました。

来年度の都市緑化フェアにつきましては、特に堀金・穂高につきましては、チューリップそれから菜の花、それとあと合わせてチューリップの間にユリ等植えて、大町・松川地区につきましては、シェクバ展ということでNHKの趣味の園芸といったところをメインとして盛り上げていきたいと思っております。以上です。

イ 公園イベント等について（国営アルプスあづみの公園管理センター 内田企画広報課長）

お手元資料ですね、こちらの管理センターの運営維持管理についてという資料と、イベントチラシを2種類持ってきております。ご覧いただければと思います。それでは、こちらのレジユメの方ご覧

ください。国営アルプスあづみの公園の運営維持管理について平成30年度版でございます。こちらではですね、地域連携事業などイベント事業、先程ご説明がありましたが、花修景の部分と、あと大町・松川地区のですね、イベントについてもご参考に載せてございます。

まずは地域連携事業の1ページ目でございます。先だって5月4日にあづみの公園早春賦祭が行われました。私ども公園管理センター実行委員会に加わりまして、安曇野市さま、教育委員会さまにお力添えをいただくと共に、市民団体の早春賦愛国会のみなさんと共にイベントを実施したところでございます。文章中にある通りですね、63団体の市民の皆さま、学生・生徒・児童のみなさん、教員さん団体ご参加いただきまして、750人のということで過去最高の参加を得ました。そして、当日の来園者数が1万8966人ということで、音楽祭実施日としては過去最高ということで、先程の春の入園者増について篠遠課長さんからお話しありましたが、こういったことも大きな要因ではないかなと考えております。こちらは全国都市緑化フェアのプレイベントとしても実施されまして、県の皆さまにも大変、共催ということでご協力をいただいたところでございます。

下段のセンチュリーライドにつきましては、今まさにご説明いただいたところですが、今年度お話の中にあつた通りですね、昨年度に引き続き緑のAACR・桜のAACRということで、4月の会が増えているところと、5月の会におきましては、穂高口スタートということでございまして、近隣宿泊施設の皆さまにはですね、自転車のライダーさんが宿泊施設に自転車を持ち込みたいという大きな要望がある中で、無理を聞いていただきまして、高額な自転車もあるために施設内に自転車を入れさせてくれという強い要望があるものですから、そういったところもですね、お繋ぎできたのかなというところでございます。こちらも過去最高約3500名のお客様にお越しいただいたところでございます。

めくっていただきまして、公園管理センターが事務局といえますか、コーディネートさせていただいているところですが、農家民家部事業ですね、こちら平成24年から引き続き実施しています。周辺観光も県外の生徒さんにはしていただきまして、地域経済の振興にもつながっているのかなというところでございます。また、その下の4番5番のところですね、地域伝承の取り組みですとか、園外に生息している昆虫や植物など希少な動植物がいますので、そういった地域の伝統文化や自然保護の取り組みも、公園の資源を活用して行っているところでございます。地域の皆さん、岩原方面あるいは塚原方面の皆さま、特に山との教室、田んぼの教室などで一緒に事業を実施しているところでございます。

右のページに関しましては、県の烏川溪谷緑地との連携事業を紹介させていただいてます。先日もふるさとづくり応援団のみなさんとふるさと散歩等の事業を実施しているところでございます。無料日には、境界門扉を開放しまして、両公園が行き来できるようにしているほか、イベントの実施も共同で行っていくというところでございます。先ほども話しましたが、地域の皆さまと共にですね、ふれあいマルチなどのイベントを実施していくというようなところです。

その下のところ、花修景のご紹介させていただきます。今も話がありましたが、春に関しましてはチューリップ、菜の花、こちらがお客様に大変好評を得ておりまして、ますます認知度が深まっているところでございます。夏に関しましては、里山文化ゾーンで今年もヒマワリの迷路ということで、6700平米、延長1000mを準備しているところでございまして、こちら春の菜の花・チューリップに続いて見どころになるように、広報などもしっかり取り組んでいきたいと考えております。秋に関しましては、コスモスの花修景でございます。こちら、風物詩的なものとなるように取り組んでいき

たいと思っております。

5ページ、次のページからは、イベントの計画でございます。夏に関しましてはですね、夏のアルプス大冒険というところで大町・松川地区と共通のタイトルでもって、安曇野地域にお客様を何とか引き込んで、両地区共通で来ていただいて、それぞれ楽しんでいただきたいというような計画でございます。水を使ったウォーターアドベンチャーや魚のつかみ取りなどを計画するとともにですね、伝統文化にも触れていただきたいということで、本棚を飾ったりですとか、クラフト体験をお客様に楽しんでいただけますように準備しております。そして、堀金・穂高地区ではですね、特別イベントサマーイルミネーション、一番下の所でございますが、お盆期間に計画をしております。こちら、今年で3年目になりますが、めくっていただいた通りですね、水と緑の安曇野を象徴するようなイルミネーションをしつらえまして、お客様に楽しんでいただきたいという風に考えています。秋はコスモス花フェスタ、冬に関しましてはツインイルミネーションを大町・松川地区と連動のイベントでございますが、イルミネーションイベントを計画しております。70万球の電飾で公園を彩るというような計画をしております。こちらに関しましては、12月31日にカウントダウンイベントということで実施していたのですが、近年お客様の数が伸びないというようなこともあって、12月31日はやらないという方向ですが、期間を堀金・穂高地区延長しまして、1月6日までの計画でしたが、次の3連休もですね、12, 13, 14とお客様により楽しんでいただきたいということで計画をしておりますので、こちらでもよろしく願いいたします。冬イベントに関しましては、インドアガーデンということでですね、アイスチューリップ・菜の花の庭ということで、屋内施設を活用しまして、楽しんでいただきたいというところでございます。そして、来年度に控えております、全国信州緑化フェア、こちらサブ会場と位置付けられておりますので、春のイベントをさらに充実させながら、事務局の皆さまと協力しましてですね、あるいは安曇野市の皆さまと協力して、この地域に多くのお客様を何とか呼び込みたいと考えています。

10ページ以降は、大町・松川のイベントのご紹介でございます。より、こちらも両地区連携を深めて多くのお客様に楽しんでいただきたいというふうに考えています。

こちらに、年間のイベントチラシと夏のチラシ準備しております。ぜひ多くのお客様にご紹介したいということで、引き続きご協力いただけたらと思っております。今後ともよろしくおねがいたします。以上でございます。

(2) 県営烏川溪谷緑地からの情報提供

ア 建設事務所からの情報提供（安曇野建設事務所 宮澤維持管理担当係長）

私の方から、烏川溪谷緑地工事概要図と書かれました、A4横長左上ホッチキス止めの資料にてご説明させていただきたいと思っております。

それでは、工事概要図ということでご説明いたします。パンフレットに工事の概要を示したものでございまして、青色と赤色と黄色で、現地の所は○で、項目の所は□で色を塗らさせていただきます。青が平成29年までに実施したもので、今年度30年度が赤くしてまして、来年度以降が黄色で示させていただきます。今年度の赤い部分だけ若干説明させていただきますが、まず左上の森林エリアでございますけれども、森林エリアの駐車場が現在未舗装な状態なものでして、フェア対応も兼ねまして、駐車場も一部舗装をかけていきたいという風に思っております。右下の方に行きまして、水辺エリアの須砂渡駐車場付近でございますが、園路を舗装の更新を右岸側駐車場付近をやるのとあ

わせまして、反対側の左岸側につきましても、園路が砂利道になっておりますので、その部分の舗装と、あと駐車場を一部整備させていただきたいという風に思っております。それから、右岸側の木道もですね、木がだいぶ老朽化に伴って傷んでいて、そろそろ危険な状態になりつつあるということで、そこを新たに改修させていただきたくて予定でございます。

1枚めくっていただきまして、裏面になります。烏川溪谷緑地の来園者数の推移でございます。平成29年度は3万1400人ということで、28年から若干減ということで、27年が突出して多いのはミステリーツアーという企画があった関係で、大分そういった企画に寄ってきたお客様がいらしたということで、これはイレギュラーな形で多いんですけれども、毎年3万人前後で推移している状況でございます。累計としましては45万6400人のご来場者がいるということでございます。

3ページの右側の方に行きまして、こちらが南安曇農業高校さんと協力で、「自分たちで作ろうプロジェクト」ということで、高校生DIYということで長野県が将来の建設業の若手を支援していくというものもありまして、現場にも高校生の皆さんが体験していただけるというプロジェクトの中で、この豊科大天井岳線の入口の所で実習をしております。測量実習をやったり、昨年度もインターロッキングの施工実習などやった経過がございますので、地元の皆さま、関係者の皆さまもご協力・ご支援のほう、またお願いしたいという風に思っております。

2面に行きまして4ページでございます。信州緑化フェアに向けまして、安曇野建設事務所のほうで入口付近の道路管理者としての整備の一環として、ご説明させていただきたいと思っております。航空写真、上からとって右側が東側の入口付近で、左側が国営さんの駐車場の入り口付近という形になってございます。右側からその入り口の付近の北側にですね、先程ご説明いたしました南農さんのDIYプロジェクトによるポケットパークということで、南農さんの方で庭づくりというんですかね、企画して一応ここもフェアまでにはポケットパークみたいな形になるという予定でございます。右の下の方に、一応入口付近の完成イメージ図がございますが、フラワーポッドと、森林税を活用した植樹ということで、今植樹マスをインターロッキングで作っているところでございまして、その植樹マスには森林税を活用した植樹、今のところ植樹としましては、コブシをやろうかなという風に予定はしてございます。あと、そのコブシの間というんですかね、フラワーポッドを南農さんのほうで今年度から作りまして、フラワーポッドを準備させていただきたくて予定になっているんですけれども、それをフェアの期間中には花を咲かせたものを、そのイメージの所のような形で置いていきたいと思っております。

あと、前回の会議の中で希少種があるといった事態、この航空写真の真ん中付近のところに三角っぽく箇所を示させていただきましたが、ここに希少種があるのの中で、維持管理は草刈とかした方がいいんじゃないかという話もある中で、その辺の植物関係に非常に詳しい市の那須野課長さんの立ち合いのもとですね、確認をしていただきまして、とりあえずその希少種が必要とする植草自体は確認は今のところできていないんですけども、ただその植草がまた改めて生えてくれるように草刈等は実施した方がいいんじゃないか、というお話がありましたので、ここにも実施前・実施後という風にして書いてございますけれども、その4月の段階で草刈をさせていただきました。今後は通常の維持管理で草刈を実施してもよいというお話がありましたので、道路管理の中で今後も草刈等実施できる範疇で対応していきたいという風に考えてございます。建設事務所の方からの説明は以上でございます。

イ 公園イベント等について（烏川溪谷緑地環境管理事務所）

資料ですが、パークコミュニティ会議資料ということで、烏川溪谷緑地行事計画及び実施状況ということで、29-35裏表でお配りさせていただいております。それと、信州山の日特別企画というニュースリリースのペーパーでございます。烏川溪谷緑地の行事計画及び実施状況ということで、平成29年度につきましては、計画705名に対しまして485名という結果でございました。内容につきましては、ご覧いただいている通りでございまして、地域の資源を活用したイベントを中心に展開をさせていただいております。下の段のほうで、4・5月宿泊施設タイアップオオルリ観察会といったものを、この会議のほうにも出席いただいております会員の方、市のほうのメーリングリストを活用させていただきまして、ペンション協議会さんあるいは温泉旅館組合さんのほうに情報提供させていただいておりますが、申し込みございませんでしたので、対応してはございません。その週につきましては、市の観光協会さんあるいは各施設のほうですね、その週の企画等は個別に動いている関係がございましたので、こちらについても特に調整ができなかった点もありまして、未実施となっております。

裏面ご覧ください。平成30年度の行事計画および実施状況ですけれども、今年度につきましては500名程度を計画しておりまして、現在市が5月19日まで終了してございます。4-5月のオオルウィークスの観察会ということで計画しておりましたが、今年は年度当初に4月の27と28にオオルリの観察会を開催いたしました。今までそういうことはなかったんですけれども、オオルリが観察することができなかったというような異常事態に、異常な状況がありまして、鳥自体が見れないということがございましたので、ご案内をさせていただいておりますので、未実施となっております。

チラシのほうですけれども、信州山の日特別企画ということで、既に募集開始しておりますものがいくつかありますけれども、その中で、長野県のほうで特に力を入れてやっている信州山の日の関係につきましては、お配りさせていただいております資料ですけれども、7月21日の土曜日、22日が山の日になりますが、21日、22日を予備日とさせていただいております。こちらにつきましては地域の資源を活用してということで、こちらの小島鳥水という方が日本山岳会の初代の会長が小説家でもありまして、この辺りを歩いた時の様子を記したものがございまして、それらを読み解きながら、現地を辿りながら歩くというようなイベントとなっております。満願寺よりさらに10kmほど上流を歩くというイベントになっておりまして、国営アルプスあづみの公園さんの穂高口駐車場を集合場所とさせていただいて、そこから移動して、またそこへ戻ってきくというような企画となっております。帰られる際には公園のほう利用等を併せてご案内をさせていただくような形で行うという風に考えております。また、こういった地域のイベントも企画しておりますので、ご案内でございまして、今こちら資料添付してございませんが、利用のところで新たな動きございまして、リゾート安曇野さんですかね、豊田市民の森の関係ですとか、ホテルアンビエントさんの関係の団体利用が公園の自然観察のガイドをお願いしたいというようなことが最近入ってきておりまして、そちらについても対応させていただいておりますので、是非この会議のほうにも参加されているメンバーの方ですね、そういったお客様がおられて、ちょっとした時間を過ごしたいというような方がおられればですね、是非お声掛けいただければ、スタッフの方は対応して園内の散策をお手伝いさせていただくということが可能ですので、お願いできればと思います。あと、民泊の関係ですと、雨の日で活用できないですとかいった場合にも、展示を見に来られたりとか、ちょっとした空き時間を使ってうちのほうの散策に来ていただいているようなケースも増えてきておりますので、ひと声お声掛けいただければ私どもの方

で対応させていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。以上です。

(3) その他情報提供・提案

ア 全国都市緑化信州フェアについて

- ・県緑化フェア推進室からの情報提供

詳細は別紙資料へ。

(長野県都市まちづくり課全国都市緑化フェア推進室 大村一)

- ・市都市計画課からの情報提供

詳細は別紙資料へ。

(安曇野市都市計画課 中田補佐)

イ 市からの情報提供

- ・山岳フェスタの紹介。

詳細は別紙資料へ。

(安曇野市観光交流促進課 下里係長)

- ・先日行われた早春賦音楽祭のお礼と来年度の予定。(安曇野市教育部文化課 水谷主査)

ウ 構成団体からの情報提供

- ・これまでの企画や取り組み、ヤママユについての説明。(安曇野案内人倶楽部 代表 等々力 秀和)

安曇野市の豊科インターから北に約3km、合計で10km、もう20年も前から花を植えているんですが、マリーゴールド植えています。約2500人ほどの、今1700人ぐらいしかいないんですけども、段々減ってきておりますが、そのみなさんと一緒にマリーゴールドを植えて11月まで咲いてます。この運動をずっと長いことやっています。今回市のほう本格的に動いてくれまして、ようやくそれが実ってきて、団体としても非常にうれしい環境になります。それから、花フェスタに関しましては、他にも屋敷林のいろんな問題点とか、いま屋敷林が減ってくる中で、それを一応安曇野のポイントとしてみんなに知ってもらおうということをして是非やりたいんですね。問題は、実は拾ヶ堰のところに花を植えてます。芝桜を4種ほど植えてますけれども、市のほうではそれをまた延長してほしいというのがあったんですが、問題はその次なんです、植えてもらった後の管理をずっと長いことやらなければいけません。そういうことをやらないと、花フェスタだけやっただけでは、翌年からはみんな撤収するようなことでは、安曇野を訪れる人たちの先が見えてきますね。これを出発として、ずっと続けていく、私も花街道20年もやっています。芝桜を植えたのも13年になります。そうやってようやく拾ヶ堰のところに芝桜を植えて桜が咲いて名所になったのですが、一時はあそこは草が茂っていて人が通る場所じゃなかった。それを2年間かけてみんな刈って、耕運機まわして、除草剤撒いて、ようやくあれになったんですよ。だから、それまで人なんか来るところじゃなかった。それを今になったら皆さんに大勢きていただいて“良い所ですね”と言うけど、そこまでどのくらいかかったか言いたいです、そういうことの1つ1つの住民との話し合いの中でつくってきたものです。ですから、そういうことを通じて、私10年かかったんですが、お金はほとんどいただいていません。ボランティアでみんなやってきたんですよ。花街道もずっと今まで違うところからお金をいただいて、今度は市のほうからお金が入るようになりましたが、そういうことでつながってきたんですよ。ですから、その間の努力が実って私は非常にうれしいんですけども、たまたま花フェスタが来るということで、非常に今まで頑張ってくれている皆さんに協力お願いします、と言ったんで、市のほうから何も言われてないなど言ってたんですがね。ですから、そういうようなことにつながるようなことになれば。マラソンの時に草を刈ってくれなんて言われたんですけど、今はあそこ全部耕運機で、草は生えていないはずですよ。あれもみんなです。だからあそこ4田んぼあるんですよ。そこをわずか2、3人で草

を刈ってやっているわけですよ。それがようやく今まちの方でも動き出してきて、建設事務所の方でも動かしてくれて、あそこに草を刈ってくれたり、やっているようになりました。ようやくそこまで落ち着いてきたんですね。そういう方向にようやくみんなが協力してくれるようになったんで、ようやく今実ろうとしてますが、そういうみんなの努力というものをですね、無駄にすることなく、この花フェスタを通じて、まち全体でお願いできればと思います。

<以降のヤママユについての内容の詳細は、別紙資料および次項へ>

- ・天蚕、繡仏についての説明。

詳細は別紙資料へ。

(安曇野案内人倶楽部)

- ・岩原地区の今の状況についての説明。(岩原の自然と文化を守り育てる会 会長 百瀬 進)

私どもの会には数十名、50名足らずの会員で自分たちの身の丈に合った、自分たちが楽しめる会ということでやっておりますけれども、基本的な考え方は、足元の岩原の自然や文化、これは先祖以来ずっと守り育てられてきた、それを見直してこれから向け守っていきいたいし、もう1つは育てていきたいと、もっといえば岩原らしく発展したり、あるいは活性化につなげる活動をしたいということで、そこにプラスして5年前、国営公園3期地区の開園を目前として、国営公園と連携をしてということで、多分細かいとこほとんど重なってのことでございます。今までのことは、ほとんど新聞報道等を通して発信されていますので、今の状況で2つ3つ、情報提供をさせていただいて、ご相談申し上げたいと思います。

1つ目。私ども会で地区に約数十か所、百株をはるかに超えるオオルリシジミの食草を、クララを3年かけてここまで植えてきたんですねけれども、3日前、信大の先生方はじめ、専門の先生方ずっと見ていただいて、数十頭の幼虫がすでにそのクララにいるということがわかりました。自然繁殖が実現してしまった、ということです。これは恐らく大きなニュースになると思うんですねけれども、いろんな問題があるものですから、ちょっと那須野さん等々相談をしてということになると思いますけれども、少なくとも公園の外に、もう恐らく来年の春はオオルリシジミ舞うと思います。じゃあこれどうするかという問題があります。

恐らく来月になると、これも公園に隣接した場所の池でホタルが2,3年前から少しずつ、もうすでに今は群舞の状態になって、数百頭がイルミネーションに比べるとささやかですがけれども、でも余所から導入したゲンジボタルではなくって、地元でずっと、補足するなら育ててきたヘイケボタルが公園の中を実はとんでっているんですよ。恐らくここの皆さんは承知してないと思いますけれども。そんな状況です。

それから、岩原城については先ほどの住吉から角蔵へのコースも睨みながらの、まずは岩原城へのトレイルコースを整備して、今年からもう既にできるようになっております。それどういう風にするか市議会等でこの間も話があったので、それを横に見ながら文化財あるいは観光振興ということでは是非、またよろしくお願ひしたいというふうに思いますけれども、その辺のところを含めて、これまで活動したことについて今までのものまとめて、資料として誰もがそれを見たり学んだりできるものというふうに考えたんですねけれども、それをもとにガイドブックを来年の3月末で刊行、5判で200ページほど、岩原の中で約10コース、そこにプラスして公園の中の2,3コースをあわせ、第3期地区とそのまわりということで数十か所を巡って楽しめる。そういう形でのガイドブックをまず出したいというふうに思っております。恐らく同じようなことは牧とか塚原とかっていうところを含めたこの堀

金・穂高地区のまわりもできればいいガイドブックになろうというふうに思います。まず、来年3月どうしても出したいと思うのは、緑化フェアの問題が1個あります。それからもう1つは、前年比約300%、1万6千人がゴールデンウィークにお客さんが来て、私の家も例えば庭に来て車でUターンして、あるいは、どうやって行ったらよいかという質問があるんですけども、それからもちろん、散策してる方がいるんですが、少なくとも公園の外については手立てが全くできてない。逆に言えば、缶ジュース1本も岩原のためになってないんじゃないかと、私は思っています。私はまずは岩原のことを、皆さんに知っていただきたいというふうに思いますけれども、多分この会の具体的な形として、ようやく私も仕事が一段落したものですから、少しそちらに力点を置きながらやっていきたいというふうに思っておりますので、是非よろしくご協力をいただきたいと思います。

- ・近隣住人に対する配慮についての要望。（堀金地域岩原区 代表区長 齋藤 正廣）

観光地として催し物やってお客さん呼ぶのは大変大事なことで良いことだと思うが、もう少し隣近所に対する配慮もしてほしい。それと、さっき自転車のイベントもあったが、私通勤途中でもう邪魔で邪魔で、それこそどいてくれないし、そういうのがあるんで、そういうところもっと徹底していただけたらなと思います。ですので、やるのは結構だが、周りに対する配慮ももう少ししていただけたらなと思います。

- （4） 全国都市緑化信州フェア開催に合わせたスタンプラリーについて（事務局）

事務局から全国都市緑化信州フェア安曇野市スタンプラリーの説明。－詳細は別紙資料へ。

その後、事務局提案－全国都市緑化信州フェア安曇野市スタンプラリー 原案について了承

- （5） 意見交換

- ・信州緑化フェアに伴い拾ヶ堰の芝桜の延長をすることになっているが、フェア終了後の維持管理にあたり、この先長く維持管理をして安曇野らしさの発信ができるようにすべき。そのために、地域との連携、資金面などの課題も踏まえた維持管理の計画を要望する。
- ・最も集客が見込まれているメイン会場から、サブ会場・サテライト会場へ人を誘導するために、どういった情報発信をするのか。－やまびこドーム内に情報発信をするためのスペースを割く予定がある。
- ・会場周辺で道に迷っている人の誘導が必要と思う。－メイン会場に総合案内所が設けられる。

- （6） その他

今回は、来年2月に開催予定としたい。場合によっては、随時開催する可能性がある。（事務局）

5 閉会

薄井副会長により閉会

第8回あづみのパークコミュニティ会議次第

日時：平成30年6月25日（月）午前10時30分から
場所：国営アルプスあづみの公園管理センター2階会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 会議事項

(1) 国営アルプスあづみの公園からの情報提供

- ア 国営公園からの情報提供 ・ ・ ・ 長野国道事務所
- イ 公園イベント等について ・ ・ ・ 公園管理センター

(2) 県営烏川溪谷緑地からの情報提供

- ア 建設事務所からの情報提供 ・ ・ ・ 安曇野建設事務所
- イ 公園イベント等について ・ ・ ・ 環境管理事務所

(3) 情報提供

- ア 県、都市計画課からの情報提供 ・ ・ ・ 緑化フェア推進室・都市計画課
- ・全国都市緑化信州フェアについて
- イ 市からの情報提供 ・ ・ ・ 各担当部署
- ウ 構成団体からの情報提供 ・ ・ ・ 各構成団体

(4) 全国都市緑化信州フェア開催に合わせたスタンプラリーについて ・ ・ ・ 事務局

(5) 意見交換

(6) その他

5 閉会

あづみのパークコミュニティ会議

構成団体名簿

〔敬称略、順不同〕

団体名	職名	氏名
安曇野穂高温泉旅館組合	組合長	辻谷 洋一
安曇野ペンション協議会	理事長	薄井 満介
安曇野案内人倶楽部	代表	等々力 秀和
安曇野市観光協会	会長	丸山 庄一
穂高地域牧区	区長	寺島 啓二
堀金地域岩原区	代表区長	齋藤 正廣
岩原の自然と文化を守り育てる会	代表	百瀬 新治
安曇野市商工会穂高支所	支所長	平川 博章
国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所	所長	吉見 精太郎
国営アルプスあづみの 公園管理センター	管理センター長	緒方 京一
安曇野建設事務所	所長	飯森 正敏
烏川溪谷緑地環境管理事務所	所長	佐々木 俊之
株式会社ほりで一ゆ〜 (地元市営宿泊施設指定管理者)	代表取締役	太田 謙

構 成 団 体

順不同

組 織 名等	所管施設／構成員等	備考（連絡先等）
国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所	国営アルプスあづみの公園	公園課
国営アルプスあづみの公園管理センター	国営アルプスあづみの公園 指定管理者：公園財団	堀金・穂高管理センター
安曇野建設事務所	県営烏川溪谷緑地	維持管理課
烏川溪谷緑地環境管理事務所	県営烏川溪谷緑地 指定管理者：公園財団	
安曇野市観光協会	安曇野市観光情報センター、山岳観光推進実行委員会	事務局
安曇野案内人倶楽部	事務局所在地：「高松建築工房」	事務局
安曇野 穂高温泉旅館組合	ダイヤモンドあづみ野温泉ホテル、ホテルアンピエント安曇野、小岩岳旅館、湯の宿常念坊、檜湯の宿松柏、割烹旅館天満閣、穂高ビューホテル、山荘歩けっと、割烹旅館山のたこ平、割烹旅館山彦	組合長 (割烹旅館 山のたこ平)
安曇野ペンション協議会	ペンション 青いやね、ろっち 安曇野遊人、ペンション あるかす、小さなホテル アルムハウス、ペンション ウィング、リゾートハウス クラーレット、ペンション KEYAKI、ログペンション さかい、舎爐夢（シャロム）ヒュッテ、ペンション ハーヴェスト、ペンション 花ことば、セミナーハウス 花村、ペンション ファーストアルバム、ペンション メープルリーフ、ペンション ラリーグラス	理事長 (KEYAKI)
穂高地域 牧区		区長
堀金地域 岩原区		区長
地元市営宿泊施設 指定管理者	(株)ほりで一ゆ〜	代表取締役
岩原の自然と文化を 守り育てる会		事務局
安曇野市商工会 穂高支所		穂高支所長
安曇野市役所	ファインビュー室山、ほりで一ゆ〜四季の郷、ビレッジ安曇野、ピフ穂高、堀金物産センター、プラザ安曇野、三郷サラダ市、天平の森	農林部 農政課
	しゃくなげ荘、有明荘、長峰荘、湯多里山ノ神、せせらぎ	商工観光部 観光交流促進課
	豊科近代美術館、田淵行男記念館、高橋節郎記念美術館	教育部 文化課

あづみのパークコミュニティ会議出席者名簿

平成30年6月25日

敬称略、順不同

所 属	職 名 等	氏 名	備 考
安曇野穂高温泉旅館組合	組合長	辻谷 洋一	会長
安曇野ペンション協議会	理事長	薄井 満介	副会長
安曇野市観光協会	副会長	太田 謙	
(株)ほりでーゆー	代表取締役	太田 謙	
岩原の自然と文化を守り育てる会	会長	百瀬 新治	
堀金岩原区	代表区長	齋藤 正廣	
堀金岩原区	会計担当	山口 栄司	
堀金岩原区	公民館公園担当	森下 盛男	
穂高牧区	区長	寺島 啓二	
安曇野案内人倶楽部	代表	等々力秀和	
国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所	副所長	大里 弘人	
国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所 公園課	課長	篠遠 富恵	
国営アルプスあづみの公園管理センター	管理センター長	緒方 京一	
国営アルプスあづみの公園管理センター	企画広報課長	内田 利幸	
安曇野建設事務所	所長	飯森 正敏	
安曇野建設事務所維持管理課	課長	西山 広一	
安曇野建設事務所維持管理課	担当係長	宮澤 俊吉	
烏川溪谷緑地 環境管理事務所	所長	佐々木 俊之	
長野県都市・まちづくり課緑化信州フェア推進室	主任	大村 一	
安曇野市観光交流促進課	係長	下里 強	
安曇野市文化課	主査	水谷 優美	
安曇野市都市建設部	部長	横山 正	事務局
安曇野市都市建設部都市計画課	課長	久保田 薫	事務局
安曇野市都市建設部都市計画課	課長補佐	中田 徹	事務局
安曇野市都市建設部都市計画課	主査	御子柴 昌善	事務局

第8回「あづみのパークコミュニティ会議」 座席表

	安曇野建設事務所	安曇野建設事務所	安曇野建設事務所	副会長	長野国道事務所	長野国道事務所
烏川溪谷緑地 環境管理事務所						安曇野市観光協会
県庁都市・まちづくり課						㈱ほりでーゆー
岩原区						安曇野案内人倶楽部
岩原区						国営アルプスあづみの 公園管理センター
岩原区						国営アルプスあづみの 公園管理センター
牧区						
岩原の自然と文化を 守り育てる会						
	安曇野市 観光交流促進課	安曇野市 文化課	安曇野市(事務局) 都市建設部長	安曇野市(事務局) 都市計画課長	安曇野市(事務局) 都市計画課課長補佐	安曇野市(事務局) 都市計画課

入口



○ 平成29年度からの都市公園を巡る状況

1 都市公園法の改正(平成29年6月15日施行)

- (改正の背景)
- ・「量の整備を急ぐステージ」から「公園の持つ多機能性を最大限引き出すことを重視するステージ」への移行
 - ・公園整備費および維持費は、過去7年間にほぼ横ばい、一方で、今後開園する管理面積は増加、老朽化の進行
- ← 民間資本の誘導
- (改正のポイント)
- ・公募設置管理制度(Park-PFI)の創設
 - ・PFI事業の設置管理許可期間の延伸(10年 → 20年)
 - ・保育所等の占有物件への追加
 - ・公園の活性化に関する協議会の設置
 - ・都市公園の維持修繕基準の法令化

(アルプスあづみの公園の対応) ○ 基本は収益事業が否かに関わらず、より一層の公園の利活用を目指す。

- ・民間企業等に対するPark-PFI事業への参加意向アンケートを実施予定
- ・併せて、公園の一層の利活用に関する自由なアイデアの提案もアンケート実施予定
- ・イベント、花修景等で来園を呼びかけることに加えて、利活用も呼びかける公園へ

2 入園料金改定(H30.4.1から1年間の試行)

- (改定の背景)
- ・全国の国営公園の来園者増(2020年度に4,800万人)を目標。
 - ・公園の経営的 management の観点から利用促進および歳入確保を最大限図ることが出来る入園料を設定。

- (改定のポイント)
- ・小人(小中学生)無料化
 - ・大人入園料の変更(410円から450円へ)
 - ・2日通し券、全国公園共通パスポートなど各種入園料の適用範囲の拡大

(アルプスあづみの公園の状況) ○ H30.4、H30.5のアンケート調査の結果

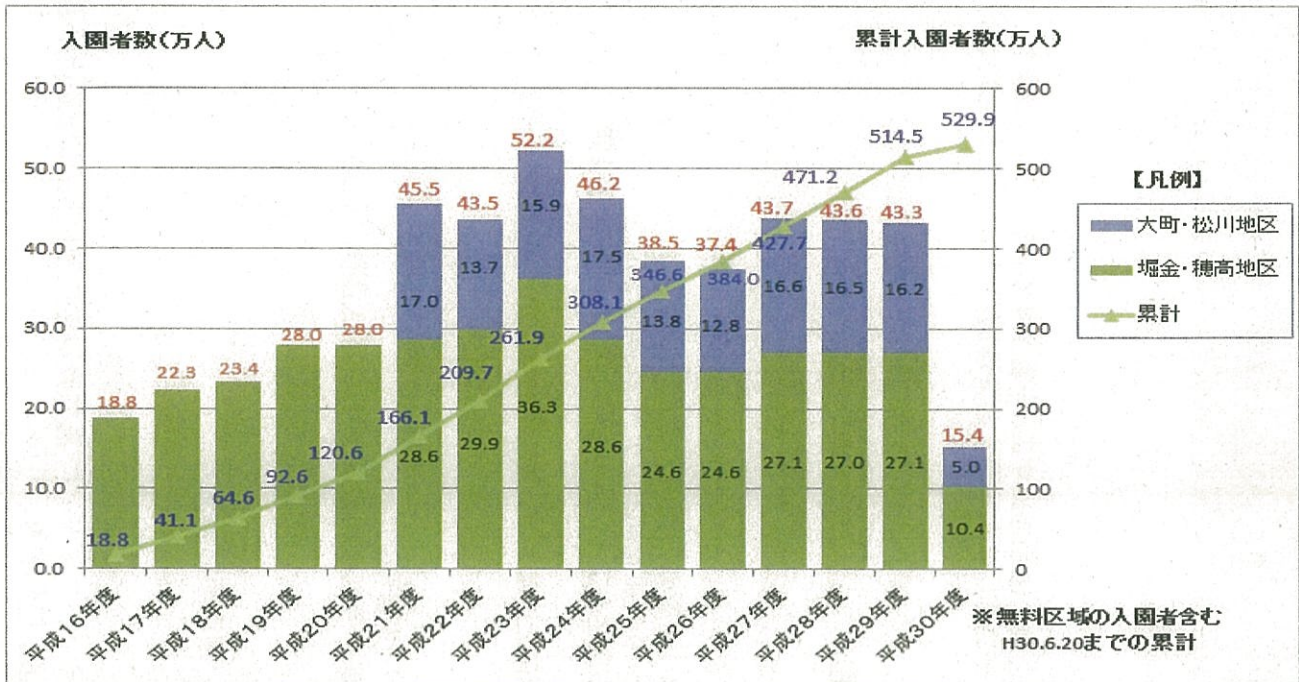
- ・料金改定の認知度は、約22%
 - ・料金改定は約66%の来園者から支持
 - ・両地区利用者の約22～30%は2日通し券を購入
- 夏休み以降に向けての取り組み必要

これまでの利用状況（年度別）



草木 木子

- ・平成29年度の入園者数は約43.3万人（前年比3千人減の0.6%減）
内訳：堀金・穂高地区27.1万人(0.3%増)、大町・松川地区16.2万人(2.1%減)
- ・平成30年度の入園者数は15.4万人(12.9%増 6月20日時点)



1

これまでの利用状況（月別）



- ・4月の入園者数は、チューリップの早期開花、広域的なテレビ放映・新聞掲載、料金改定等により、過去最高(前年比201.4%)
- ・6月20日までの累計入園者数過去最高の15.4万人(前年比112.9%)



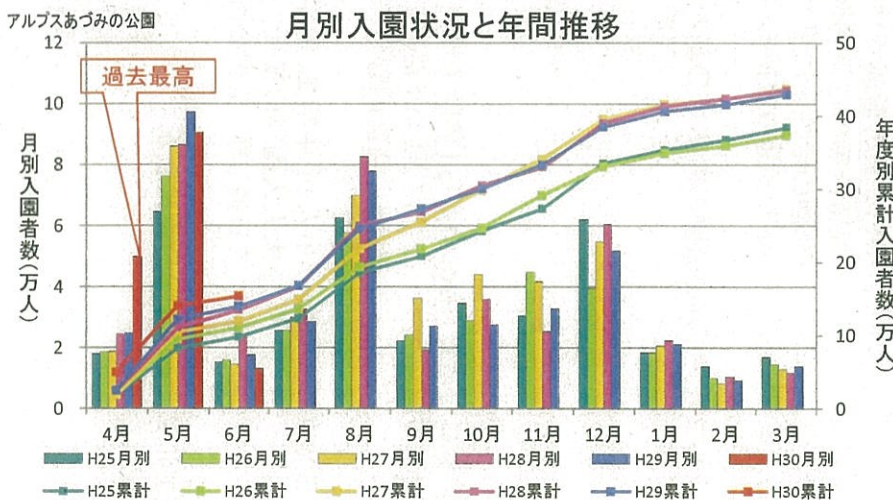
H30.4.22 桜のAACR【大町松川地区】



H30.4.23 チューリップと常念岳【堀金穂高地区】



H30.5 ナバナ【堀金穂高地区】



地区別入園者数

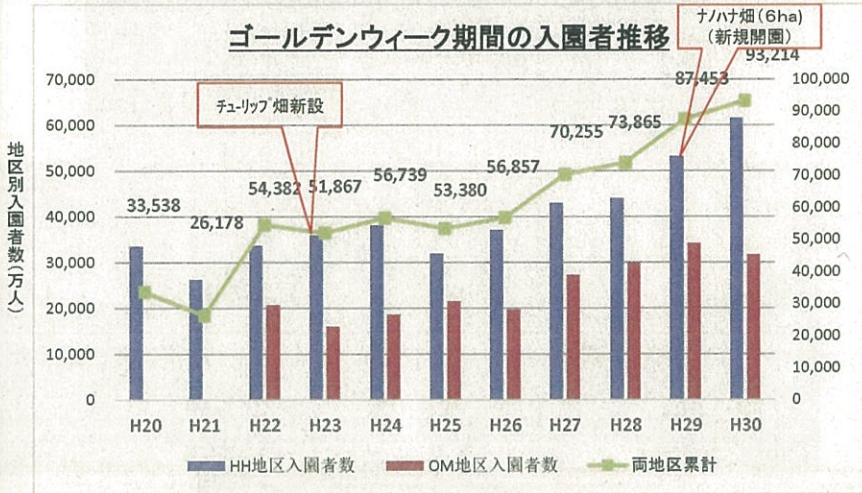
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
堀金・穂高地区	286,488	246,169	246,219	271,019	270,172	271,013	104,093
大町・松川地区	175,439	138,433	127,864	166,140	165,436	161,929	49,523
両地区合計	461,927	384,602	374,083	437,159	435,608	432,942	153,616

過去最高 52万人(H23)
30年度の入園者数は6月20日迄の累計

ゴールデンウィークの利用状況



- ・GW期間中の入園者数は過去最高の9万3千人(前年比7%増)
- ・5月4日は両地区の日入園者数過去最高 3万1千人(前年比8%増)、堀金・穂高地区の過去最高1万9千人(前年比2%増)



5/4 早春賦音楽祭(堀金・穂高地区)1万9千人過去最高



5/3 里山文化ゾーンのナノハナ



5/4 田園文化ゾーンのチューリップ

地区別入園者数

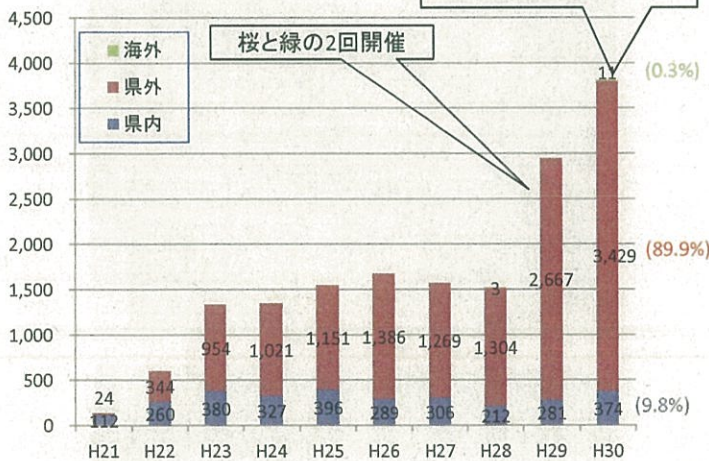
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
堀金穂高地区	45,058	39,410	41,716	33,538	26,178	33,686	35,867	38,099	31,919	37,103	37,103	29,856	53,190	61,511
大町松川地区	-	-	-	-	-	20,696	16,000	18,640	21,461	19,754	27,323	29,856	34,263	31,703
両地区合計	45,058	39,410	41,716	33,538	26,178	54,382	51,867	56,739	53,380	56,857	64,426	59,712	87,453	93,214

※ゴールデンウィーク期間 4月27日～5月8日までの12日間を集計

アルプスあづみのセンチュリーライドについて



◆ AACRの参加者の推移

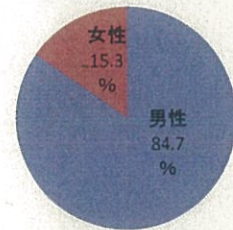


緑AACRは、新たに堀金穂高地区スタートにより、754人の参加者増加

桜と緑の2回開催

- ・県外の参加者が約9割、殆どが2日間滞在
- ・穂高口スタートで754人増、安曇野市内の宿泊が増加
- ・チャリティ募金を募り、地域整備・福祉等に貢献
- ・NHK BS1「チャリダー」出演者参加・放映

男女別割合 (H21～30)



5/20 緑のAAC堀金口からのスタート759人



4/21 阿部知事への参加者からの募金贈呈



4/22 NHK「チャリダー」出演者の参加 撮影状況

参加者の推移

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
県内	112	260	380	327	396	289	306	212	281	374
県外	24	344	954	1,021	1,151	1,386	1,269	1,304	2,667	3,429
海外	-	-	-	-	-	-	3	-	-	11
合計	136	604	1,334	1,348	1,547	1,675	1,575	1,519	2,948	3,814

他県からの参加状況

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
最北端	埼玉県	栃木県	栃木県	北海道	宮城県	北海道	北海道	宮城県	北海道	北海道
最南端	滋賀県	岡山県	福岡県	熊本県	福岡県	熊本県	大分県	大分県	熊本県	熊本県



◆4/21 スタート会場(梓水苑)



4/21 参加者受付



NHK BS1 「チャリダー」ブース



会場写真(ステージ、出展ブース)



◆4/21 2days スタート(梓水苑)



2days 参加者への説明



2days 参加者への説明



2days 参加者 スタート前写真撮影



2days スタート



◆4/21 寄付金贈呈式(梓水苑)



ウエルカムトーク



阿部知事へ寄付金贈呈



寄付金贈呈3団体と鈴木実行委員長との記念撮影



阿部知事へのブース案内



◆NHK BS1 チャリダー参加・放映

すべての自転車乗りに贈る
チャリダー

Alps Azumino Century Ride 2018

4月22日①
— 150km 1DAY
— 100km 1DAY
— サイクルトレイン

4月21日②・22日③
— 150km 2DAYS

<放送予定> **NHK BS1**
5月26日(土)・6月2日(土)
午後6:00~

4月22日の大勢に
出場します!

うじきつよし
朝比奈彰
池野 亨
志るやいなや
マリン

桜のアルプスあづみのセンチュリーライド
2018を特集!

NHK BS1



4/22 チャリダー 出演者撮影状況



4/22 ネギ味噌おにぎりの撮影

4/22 ネギ味噌おにぎりの撮影

NHK BS1「チャリダー」特撮
5/26 BS1で放映の他、5/25,29NHK総合(長野のみ)放映



◆4/22 あづみの公園大町エイド



スタートから42.8km あづみの公園大町エイドに到着



ネギ味噌おにぎり、黒豆羊羹、水の振る舞い



ネギ味噌おにぎりの振る舞い



海外からの参加者



◆5/20 120km、80kmスタート地点(穂高口)



小雨の中、スタートを待つ参加者



スタートの様子(4~5人毎にスタート)



スタート直後の様子(参加者が、各自交通ルールを守り走行)



ゴール後は、完走証等をもらい記念撮影



◆5/20 あづみの公園掘金エイド



あづみの公園(堀金・穂高地区)内を走行する参加者



あづみの公園掘金エイドの状況



米粉パン、饅頭、水の振る舞い



米粉パンに地元産ジャムを付ける参加者

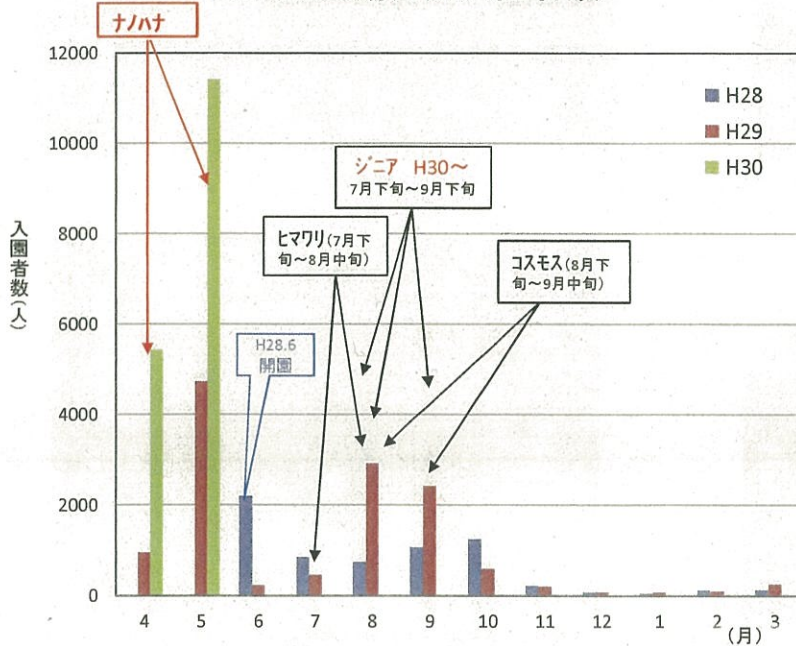
あづみの公園4～5月の入園者増加の要因 1



○堀金・穂高地区の春の花修景(チューリップ、ナノハナ)による入園者増加(認知度の向上)

- ・3期地区(里山文化ゾーン)の4～5月入園者1万6千人(前年比297%)
- ・3期地区(里山文化ゾーン)への入園者割合も急増(H28:4.8%⇒H29:17.5%)

HH地区3期月別入園者数



5/3 里山文化ゾーンのナノハナ



4/19 田園文化ゾーンのチューリップ
(例年より、10日程早い開花)

1

あづみの公園4～5月の入園者増加の要因 2



- ・料金改定に伴うNHKロボットカメラの設置・広域的なテレビ放映
- ・ゴールデンウィークの後半初日(5/3)の中日新聞1面へのナノハナの情報掲載
- ・入園料改定試行(特に小児無料)に伴う来園者増



黄に染まる 菜の花の里
安曇野
長野県安曇野市の国営アルプスあづみの公園で菜の花が見頃を迎え、黄色い花が一面に広がっている。
公園にある穂田約六割に、約五百万本が植えられている。例年通り、五月中旬ごろまでが見頃と予想。観光客たちが大々散らしたり、写真を撮ったりして楽しんでいた。
二、四日は、お客への入場料を無料にする。

5/3中日新聞(朝刊)1面に掲載された3期地区のナノハナ



NHK「おはよう日本」で関東甲信越地域への放映(4/20、4/25)



ロボットカメラ(お天気カメラ)の設置状況

- 4/16～5/2 田園文化ゾーンのチューリップ
・「NHKおはよう日本」で2回放映の他、長野県内へ天気コーナーで中継
- 5/2～5/25 3期地区のナノハナ
・5/2に長野放送局内の天気コーナーで放映された他、長野県内5回程中継

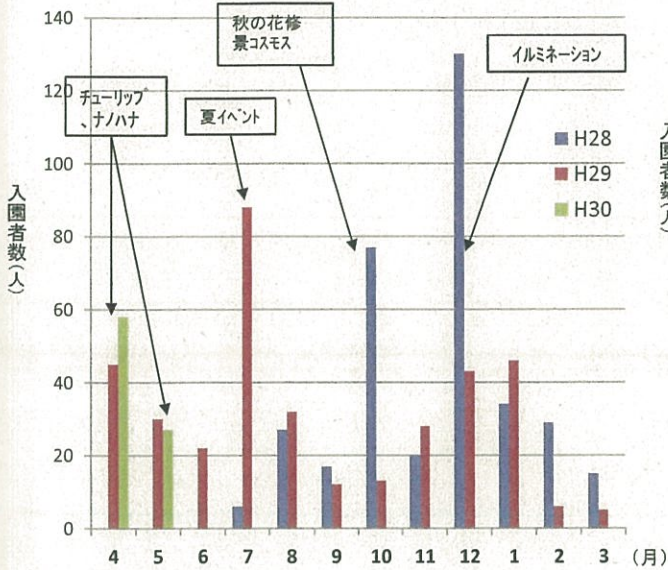
2

あづみの公園における外国人の入園状況

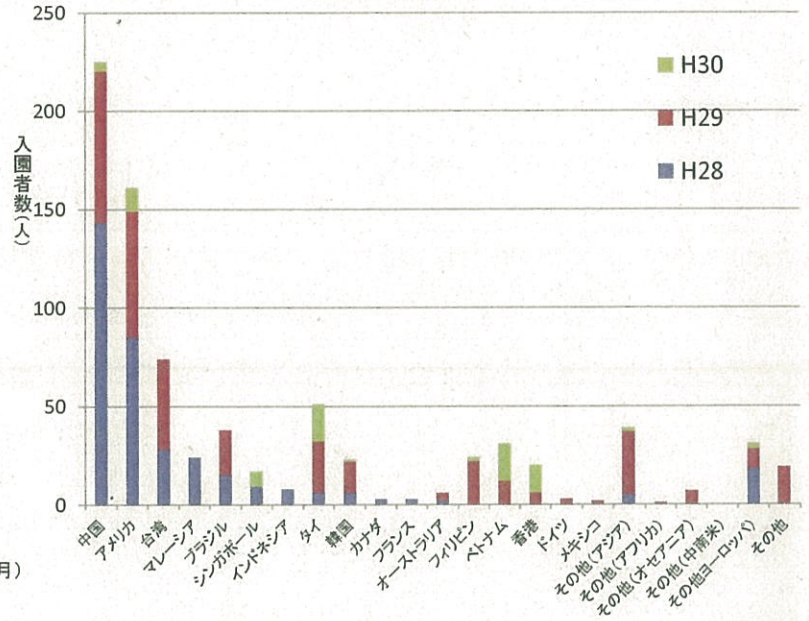


- あづみの公園に外国人の入園者は年間約400人程で推移(入園者全体の約0.1%)
- 月別にみると、イルミネーション、花修景、夏のイベント時に多い傾向
- 国別では中国が最も多く、H30春にはタイ、ベトナムをはじめアジアからの来園者が多い

月別外国人の来園者数



国別来園者数



あづみの公園における外国人の入園状況(データ)



アルプスあづみの公園の月別外国人来園者数

月	H28入園者数			H29入園者数			H30入園者数			備考
	全体(人)	内、外国人(人)	外国人の割合(%)	全体(人)	内、外国人(人)	外国人の割合(%)	全体(人)	内、外国人(人)	外国人の割合(%)	
4				24,783	45	0.18%	49,907	58	0.12%	4/20,21,28,29計測不能 アジア系外国人多数来園
5				97,294	30	0.03%	90,542	27	0.03%	5/3~6計測不能 アジア系外国人多数来園
6				17,677	22	0.12%				
7	25,884	6	0.02%	28,562	88	0.31%				
8	82,584	27	0.03%	77,878	32	0.04%				
9	19,241	17	0.09%	27,073	12	0.04%				
10	35,965	77	0.21%	30,727	13	0.04%				
11	25,278	20	0.08%	32,851	28	0.09%				
12	60,444	130	0.22%	51,701	43	0.08%				
1	22,381	34	0.15%	21,227	46	0.22%				
2	10,478	29	0.28%	9,354	6	0.06%				
3	11,769	15	0.13%	13,805	5	0.04%				
合計	294,024	355	0.12%	432,932	370	0.09%	140,449	85	0.06%	

H28.7のデータは、7.16からの累計



平成 30 年度 国営アルプスあづみの公園 運営維持管理について

1. 主旨

公園周辺の地域住民の皆様及び観光で訪れるお客様に安全・快適に国営公園を満喫していただくために、北アルプスを背景にした大自然に囲まれた国営公園のポテンシャル、さらに安曇野地域の魅力を最大限に活用した地域連携事業やイベント展開を図ります。

2. 地域連携事業

1) あづみの公園早春賦音楽祭 (5/4)

主催：実行委員会（安曇野市、安曇野市教育委員会、早春賦愛唱会、

アルプスあづみの公園管理センター）

本年度 14 回を数え、毎年恒例のビッグイベントに成長しています。安曇野市内小中高の吹奏楽部等に所属する児童・生徒や市民の方々 63 団体約 750 人（過去最高）が参加しました。今回は 18,966 人が来園（音楽祭実施日としては過去最高）、その内約 3 割が県外客とあって、童謡唱歌にゆかりのある安曇野地域の PR にもつながっています。来年度実施される「全国都市緑化信州フェア」のプレイベントとしても実施されました。

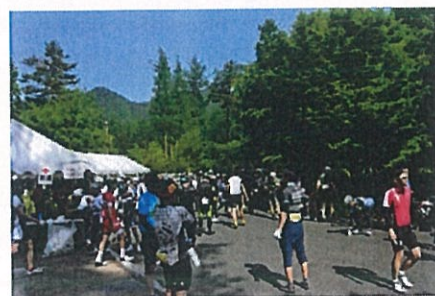


2) アルプスあづみのセンチュリーライド (4/22・5/20)

主催：実行委員会（一般社団法人松本観光コンベンション協会、BIKE RANCH、

株式会社アドソニック、株式会社未来図、アルプスあづみの公園管理センター）

本年度 10 回目となる恒例の地域連携事業。昨年度より『桜の AACR』として 4 月の回を設定。5 月の『緑の AACR』と 2 回実施するほどに拡大（参加者合計約 3,500 人）。今回より『緑の AACR』において穂高ロスタートゴールとなるコースを新設し、近隣宿泊施設の利用促進にもつながっています。北アルプス山麓・安曇野の魅力を発信し、自転車に乗る楽しさを広め、地域振興にも寄与しています。松本から白馬の間を思い思いに疾走し、堀金・穂高、大町・松川両地区を含め途中 6 か所のエイドでは地域の皆様のご協力のもと、地元特産品の振る舞いを行っています。



3) 農家民泊事業

事務局：アルプスあづみの公園管理センター

協力：安曇野市農家民泊連絡協議会、安曇野松川村農家民泊連絡協議会、信濃大町農家民泊協議会
 国営公園における地域振興事業の取り組みとして、公園プロデュースによる「農家民泊」事業を行っています。大都市圏に所在する学校の生徒が農家に泊まり農業体験をする中で、自然や地元の方々との触れ合いを通じ「安曇野」を体験する機会となっています。平成 24 年度より松川村が受け入れを開始。平成 25 年度から大町市、平成 27 年度からは安曇野市が加わり、平成 29 年度には 10 校 1,787 名をお迎えしています。周辺観光等も行い地域経済の振興にもつながっています。



農作業体験



OM 地区での食体験

4) 安曇野地域文化伝承の取り組み

山岳と田園が一体となった安曇野地域の景観及びこれをはぐくむ豊かな風土・文化の保全と創出に取り組めます。【堀金・穂高地区】里山文化ゾーンでは、「さとやま楽校」として、やまこの教室『ヤマユガを育てる・繭からの糸取り』等、田んぼの教室『田植え・稲刈り』等のプログラムを実施しています。



やまこの教室



田んぼの教室

5) 安曇野特有の自然環境の保全の取り組み

広大な国営公園の敷地には、レッドデータブックに記載される「オオルリシジミ」等の絶滅が危惧される生き物が生息しています。安曇野オオルリシジミ保護対策会議や南安曇農業高校等と連携して貴重な生き物やそれらをはぐくむ環境を保全・創出しています。



サンクチュアリでの観察会



オオルリシジミと食草クララ

6) 烏川渓谷緑地との連携事業

隣接する烏川渓谷緑地をフィールドとして、地域団体「NPO)安曇野ふるさとづくり応援団」の皆様のご協力を得て『ふるさとさんぽ』等の事業を実施しました。無料開園日には境界門扉を開放し、往来を可能にしているほかウォーキングなどのイベントを実施しています。



7) 地域の市民活動の皆様との連携

公園の所在する地域の方々とともに連携事業を実施しています。塚原地区の「塚原誕生200周年地域づくり振興会」との連携事業として『常念山麓ふれあいマルシェ（軽トラ市）』、また、岩原地区では「岩原の自然と文化を考える会」の皆様と『田植え体験』等を実施しています。



常念山麓ふれあいマルシェ



田植え体験

3. 公園の魅力をも高める花修景

【堀金・穂高地区】植物修景計画

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
チューリップ	■												段々原っぱ
ナハナ		■											里山文化ゾーン
シャレホピー			■										穂高口
ソバ・アサガ				■	■								里山文化ゾーン
ヒマワリ（迷路）					■								里山文化ゾーン
サバチン					■	■							段々池
コスモ							■						段々原っぱ
アイスチューリップ										■			あづみの学校
早咲きナハナ											■		あづみの学校

1) 春の花修景

『田園文化ゾーン』段々原っぱでは95品種24万本のチューリップが美しく咲きそろいました。『里山文化ゾーン』では、500万本のナノハナが一面の花畑となりました。



段々原っぱチューリップ



里山文化ゾーンナノハナ

2) 夏の花修景

『田園文化ゾーン』水上花壇のサンパチェンスのほか、『里山文化ゾーン』では、6,700㎡・延長1,000mの「ひまわり迷路」を準備しています。



安曇野生まれサンパチェンス



里山文化ゾーンのソバ



里山文化ゾーンのヒマワリ

3) 秋のコスモスの花修景

『田園文化ゾーン』段々原っぱではコスモス、『里山文化ゾーン』ではキバナコスモスを中心に北アルプスを背景とした花修景を展開します。



田園文化ゾーン



里山文化ゾーン

4. イベント事業

1) 夏のアルプス大冒険（夏イベント） 7月14日（土）～8月26日（日）

【堀金・穂高地区】

① ウォーターアドベンチャー（7/14～8/26）

公園の資源である北アルプス山麓の『水』を活用し、公園内の段々に広がる池面に設置した水上アスレチックを楽しんでいただけます。



ウォーターアドベンチャー



じゃぶじゃぶ池

② ジマスのつかみ取り体験（7/14～8/26の土日祭日・8/13～16）

園内の池に放されたニジマスを手でつかみ取る体験。取った魚は、その場でさばいて炭火焼で食べていただけます。



池で魚を掴み取る



捕まえた魚を炭火で焼く

その他、テーマ展示館「あづみの学校」におきまして、社会科教室では安曇野の風習を再現した「お盆」にまつわる展示や芸術教室での木工クラフト体験「カブトとクワガタ」づくりなど夏休みの宿題にピッタリなプログラムを準備しています。



盆棚飾り



クラフト「カブト・クワガタ」

※ 特別イベント「サマーイルミネーション」（8/10～19）

国営公園における新たな「風物詩」創出をめざし、帰省中の方々や観光需要を喚起できるよう昨年引き続き「サマーイルミネーション」を開催します。安曇野の静かな夜と水の音を存分にお楽しみいただけます。



2) 秋・コスモスの花フェスタ（秋イベント） 9/8～10/14

【堀金・穂高地区】

アウトドアパーク（9/29・30（無料入園日）・10/6・7・8 ）

前半はBBQ 体験やスポーツ体験等、後半はツリーイングの全国大会をはじめチェーンソーアート等 樹木に関連したイベントを中心に実施します。



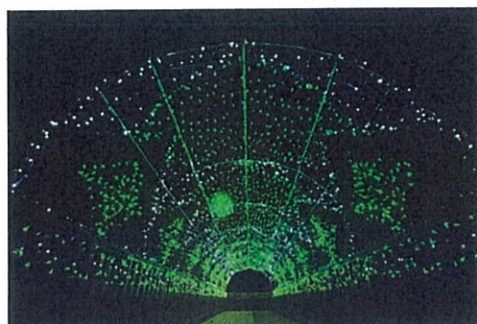
3) ツインイルミネーション『光の森のページェント』（11/3～1/6<HH 地区は 1/12・13・14 も実施>）

【両地区共通】

公園の資源である水（池）や森林の魅力を生かしたイルミネーション（約 70 万球）を開催。同時にクリスマスムードを盛り上げるコンサートやイベント等も行います。



水面に反射するイルミネーション【HH】



エメラルドグリーンのトンネル

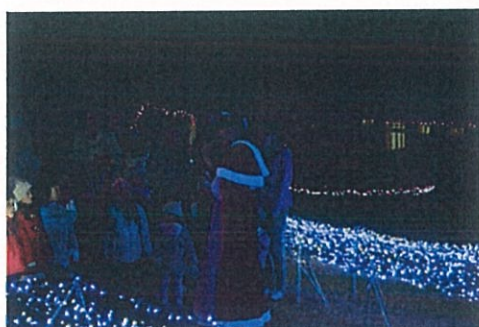


花火

大町・松川地区と同時開催で実施するツインイルミネーションは、ロールプレイングゲームのように参加性を高め、二地区を巡る冬季の一大イベントです。



森林を背景に浮かぶイルミネーション【OM】



イルミネーション点灯式



クリスマスステージ

4) 冬イベント 1月中旬～3月下旬

① インドアガーデン アイスクューリップの庭及びナノハナの庭（1/2～2/17）

球根冷蔵し開花時期を早くしたアイスクューリップ1万球に続きナノハナを室内に展示、一足早い春の陽気を演出します。



5) その他

① 平成31年度 全国都市緑化信州フェア

平成31年度「長野県松本平広域公園」をメイン会場に全国都市緑化信州フェアの開催が決まっています。（会期：平成31年4月25日～6月16日）『国営アルプスあづみの公園』は『長野県烏川渓谷緑地』とともにサブ会場として位置づけられています。早春賦音楽祭、桜と緑のAACR等両地区で実施する「スプリングフェスタ」は、緑化フェアイベントとして位置づけ実施、イベントや花修景を通じて積極的に協力・参画していきます。

(参考)

【大町・松川地区でのイベント展開】

1) 夏のアルプス大冒険～ずぶぬれ覚悟！サマースプラッシュ～ (7/14～8/26)

堀金・穂高地区と共通のタイトルで夏のイベントを実施します。大町・松川地区の自然資源を活用して乳川の川遊びや地下水のスプリンクラーを利用した水遊びを楽しんでいただくほか、森の中でのランバイクレースや散策体験など北アルプス山麓の自然を楽しんでいただきます。

① スプラッシュ・リバー (7/14～8/26)

北アルプスの3,000m級の山々から流れ出る渓流『乳川』での川遊び。夏でも冷たい水と澄んだ空気でアルプスの大自然を満喫していただきます。ターザンロープのように川を渡る「リバージップライン(8/11・12)」や起伏にとんだ乳川を下る「シャワーピクニック(7/21～8/31)」も企画しています。

② スプラッシュ・ランド (8/1～8/26)

アルプス大草原に大型プールを設置。土日祝には、「ずぶぬれタイム」として、北アルプスの地下水を活用したスプリンクラーをフル稼働させ、水しぶきが舞う楽園には

③ ランニングバイクレース「アルプスあづみのカップ」(8/25)

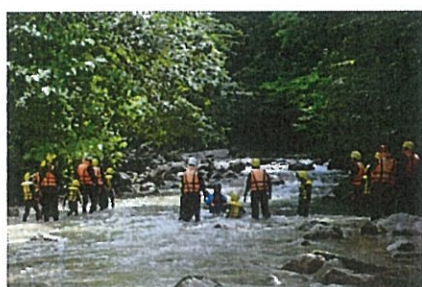
子供たちに大人気！ ランニングバイク(ペダルなし二輪車)レースを開催します。保護者の方々の大声援の中、子供たちがMTBコースを激走します。

上記の他、「ロープで木登り！ツリーイング」等 公園の自然資源を使ったイベントや夏休みに関連した「工作体験」や「自由研究」等、大小約20イベントを実施予定です。



2) 里山探検ウォーキング (8/18・19)

公園及び周辺地域を満喫する1泊2日のキャンプイベント。初日は公園内でシャワーピクニック、夜のウォーキングと観察会、翌日は熱気球の搭乗体験後、公園から大町に飛び出て、木崎湖でのカヌー班及び味噌づくり班に分かれてそれぞれの体験を堪能していただきます。



3) 北アルプスフェア (9/29・30 都市緑化月間 無料入園日)

「北アルプス地域」をコンセプトに、地域の誇りである素晴らしい食材や地域利用をはじめ観光で訪れるお客さまに広く伝えるイベントを実施します。



4) トレイルラン等健康運動イベント

「トレイルラン」は、山岳地帯を地図を頼りに走破するランイベントで『FUNトレイルフェスタ』として初心者・初級者向けに初めて開催しました。リレーマラソンは、1チーム4人以上10人以内で編成し、1周1.5kmのコース28周プラス195mをタスキでリレーし、チームで完走するものです。その他、「ランニング教室」や「30Kラン」等実施します。



5) 冬の公園で遊ぼう (1月下旬~3月上旬 予定)

雪多い立地環境を生かし、冬にしか体験できない雪遊び・そり遊びや歩くスキー、スノーシューをはいての自然散策などを行います。2月中旬には『アイスデイ』と銘打ち、氷の滑り台「アイスライダー」や氷の庭「アイスガーデン」がお目見えします。



アイスライダー



アイスガーデン



スノーシューウォーキング



歩くスキー

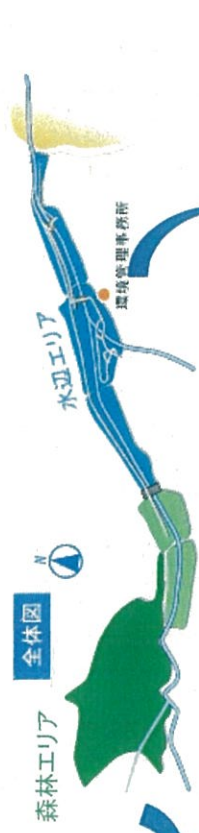
烏川渓谷緑地 工事概要図



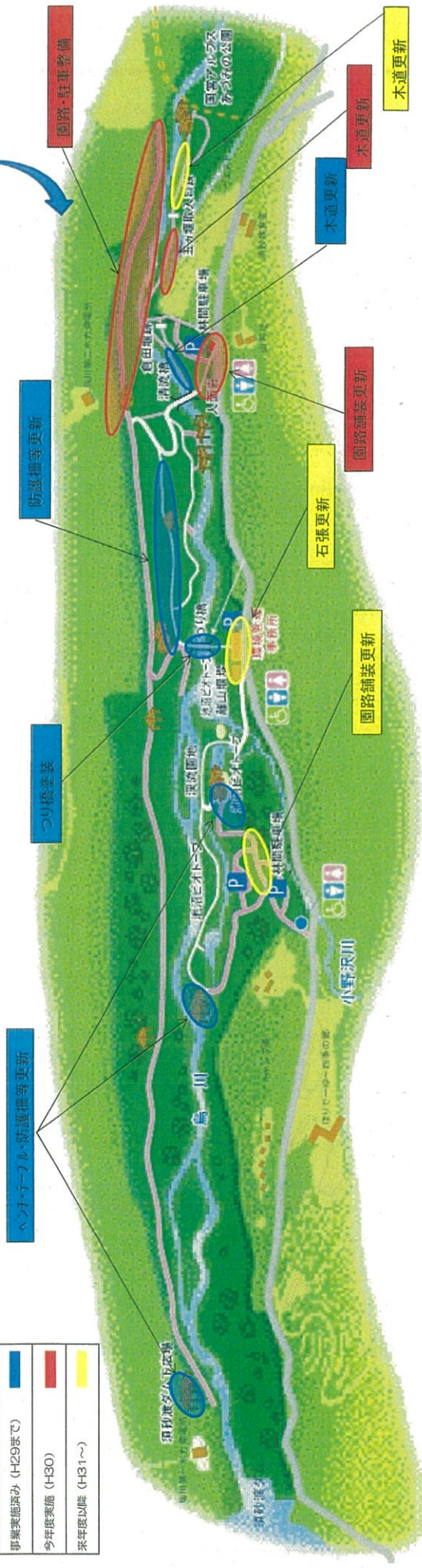
木道更新前



木道更新後



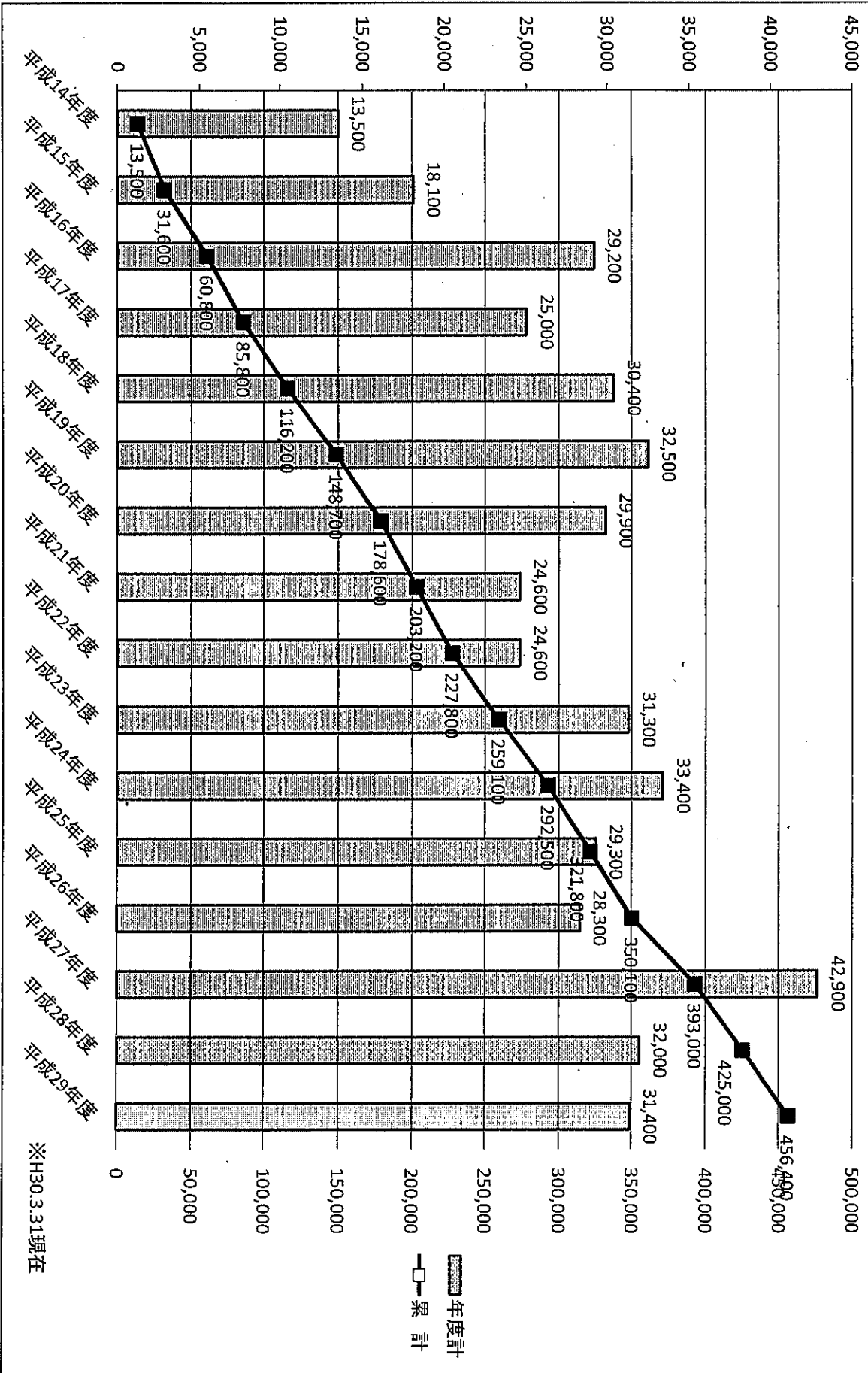
凡例	
■	事業実施済み (H29まで)
■	今年度実施 (H30)
■	来年度以降 (H31～)



(人/年度)

烏川溪谷緑地 来園者数 推移

(人・累計)



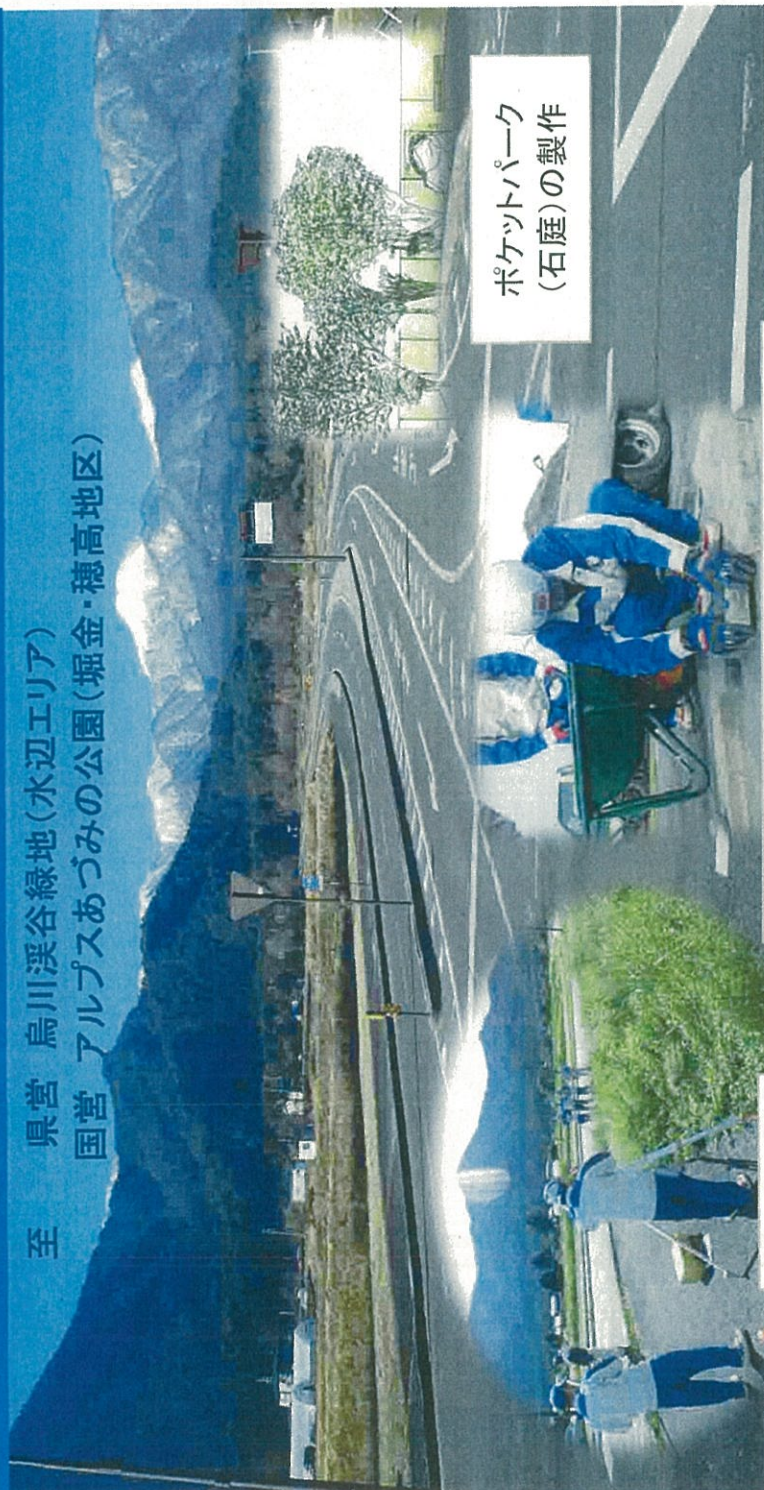
平成29年度建設系学科高校生における就労促進事業

安曇野建設事務所

「自分たちでつくるプロジェクト」(高校生DIY-プロジェクト)

生徒：南安曇農業高等学校 環境クリエイイト科

場所：一般県道 豊科大天井岳線 国営アルプスあづみの公園入口付近



至 県営 烏川渓谷緑地(水辺エリア)
国営 アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)

測量実習

インターロッキングブロック施工実習

ポケットパーク
(石庭)の製作

実際の現場で測量・施工実習を行い、自らも計画立案・製作を体験することで建設産業のやりがいを実感する。平成30年度も継続して実施する。ポケットパーク(石庭)、案内看板などが生徒から提案されている。

第36回全国都市緑化信州フェア

2019(H31)4.25～6.16

に向けた取り組み

信州花フエスタ2019 ～北アルプスからの贈り物～



南農DIYプロジェクトによるポケットパーク
(石庭)の製作



完成イメージ図

森林税を活用した植樹(コナシ)



草刈実施前



草刈実施後



フラワーポットの製作を南農へ依頼

木物を生かす計画

平成29年度 長野県烏川溪谷緑地 行催事計画及び実施状況

回数	月	開催予定日	イベント名称	会場	講師	募集人数	実施状況	備考	
1	4月	15日 (土)	からすの学校 第100回からすの学校 クラスほどカワイイ 鳥はいない!?	水辺エリア	松原 始 (東京大学特任教授/東京大学 総合研究博物館)	30名	55名		
2		22日 (土)	からすの学校 第101回からすの学校 オオルリ観察会	水辺エリア	植松 晃岳 (信州野鳥の会会員)	25名	28名		
3		29日 (土・祝)			米山 富和 (信州野鳥の会会員)	25名	16名		
4		23日 (日)	市民会議主催	カタクリ観察会	森林エリア	村田 寛 (烏川溪谷緑地市民会議会員 植物班代表)	25名	23名	
5	5月	20日 (土)	からすの学校 第102回からすの学校 林道からながめる松本盆地 ~烏川扇状地の生い立ちと地形観察~	水辺エリア	浅川 行雄 (地域環境研究室)	25名	21名		
6	6月	3日 (土)	市民会議主催	森林エリア 植物観察会	森林エリア	松田 貴子 安曇野市郷土博物館 学芸員	20名	19名	
7		17日 (土)	からすの学校	第103回からすの学校 スゲ入門観察会	水辺エリア	横井 力	25名	13名	
8		24日 (土)	からすの学校	第104回からすの学校 コケ類観察会~春~	森林エリア 水辺エリア	大石 善隆 (福井県立大学/農学博士)	25名	23名	
9	7月	1日 (土)	市民会議主催	昆虫観察会 昆虫の目から見た様みよい 森づくり	森林エリア	中田 信好 (田淵行男記念館虫の会 日本鱗翅学会会員)	25名	-	延期
10		22日 (土)	からすの学校 信州 山の日イベント	第105回からすの学校 森林療法ワークショップ	森林エリア	上原 巖 (東京農業大学教授)	25名	-	延期
11	8月	11日 (金・祝)	からすの学校 山の日イベント	第105回からすの学校 ニホンザル学習会	森林エリア	泉山 茂之 (信州大学教授 /野生動物対策センター)	25名	19名	
12		12日 (土)	市民会議主催	昆虫観察会 昆虫の目から見た様みよい 森づくり	森林エリア	中田 信好 (田淵行男記念館虫の会 日本鱗翅学会会員)	25名	20名	
13		12日 13日 (日)	その他	夏休みクラフト教室 テレイドスコープをつくろう	水辺エリア	緑地スタッフ	40名	7名	
		19日 (土)	その他	ロープクライミングを楽しもう	水辺エリア or 森林エリア	外部講師	40名	-	中止
		19日 (土)	その他	スポーツ綱渡り スラックラインを楽しもう	水辺エリア or 森林エリア	外部講師			
14	9月	2日 (土)	からすの学校	第106回からすの学校 植物の楽しみ方と写真教室	水辺エリア	いがり まさし (植物写真家)	20名	19名	
15		16日 (土)	からすの学校	第107回からすの学校 菌類 きのこの学習会	森林エリア	出川洋介 筑波大学 山岳科学センター 菅平高原実験所	25名	28名	
16		30日 (土)	地域連携	ノルディック・ウォーク あづみの公園⇄烏川溪谷緑地	水辺エリア あづみの公園	緑地スタッフ	25名	10名	
17	10月	1日 (日)	地域連携	ノルディック・ウォーク あづみの公園⇄烏川溪谷緑地	水辺エリア あづみの公園	緑地スタッフ	25名	6名	
		21日 (土)	からすの学校	第108回からすの学校 間道を歩く	水辺エリア	浅川 行雄 (地域環境研究室)	15名	-	中止
18		28日 (土)	からすの学校	第109回からすの学校 森林療法ワークショップ	森林エリア	上原 巖 (東京農業大学教授)	25名	12名	
19	11月	18日 (土)	その他	Wild About Bear 指導者養成講習会	森林エリア	グレッグ・ロシンスキー (アイダホ州政府職員)	25名	23名	
20	12月	16日 (土)	からすの学校	第110回からすの学校 冬芽でわかる樹木観察	水辺エリア	馬場 多久男 (元信州大学特任教授)	25名	14名	
21	1月	14日 (日)	市民会議主催	斧入れの儀 ヒノキ伐採体験	森林エリア	藤山 憲俊 (烏川溪谷緑地市民会議 森林保全チームリーダー)	25名	23名	
22		20日 (土)	からすの学校	第111回からすの学校 長野県のレッドデータ植物	水辺エリア	尾関 雅章 (長野県 環境保全研究所 研究員)	30名	28名	
23	2月	3日 (土)	からすの学校	第112回からすの学校 アニマルトラッキング	水辺エリア	植松 晃岳 (野生生物資料情報室 /ナチュラリスト)	25名	23名	
24		10日 (土)	その他	スノーシュー体験	水辺エリア	緑地スタッフ	20名	16名	
25	3月	17日 (土)	その他	しいたけ原木コマ打ち体験と 花炭づくり	水辺エリア	緑地スタッフ	40名	39名	
	4・5月	4/30 ~5/14	地域連携	宿泊施設タイアップ オオルリ観察会	水辺エリア	緑地スタッフ	~10名	申込み 無し	申込み 無し
	10月	7日 8日 (日)		安曇野市環境フェア	安曇野市 堀金総合 体育館		2000名	1700名	
	1・2月	1/27 ~2/18		宿泊施設タイアップ スノーシューハイク	森林エリア	緑地スタッフ	~10名		未実施
合計						705名	485名		

平成30年度 長野県烏川溪谷緑地 行催計画及び実施状況

回数	月	開催予定日		イベント名称		会場	講師	募集人数	参加人数	備考
1	4月	21日	(土)	からすの学校	第113回からすの学校 オオルリ観察会	水辺エリア	(信州野鳥の会会員)	25名	20名	調整済
		28日	(土)				(信州野鳥の会会員)	25名	25名	調整済
2		22日	(日)	市民会議主催	カタクリ観察会	森林エリア	村田 實 (烏川溪谷緑地市民会議会員 植物班代表)	25名	22名	調整済
3	5月	19日	(土)	からすの学校	第114回からすの学校 ネーチャー・ウォーキング	水辺エリア	浅川 行雄 (地域環境研究室)	25名	11名	調整済
4	6月	30日	(土)	からすの学校	第115回からすの学校 植物の楽しみ方と写真教室	森林エリア 水辺エリア	いがり まさし (植物写真家)	20名		調整済
5		8日	(日)	市民会議主催	昆虫観察会 昆虫の目から見た棲みよい 森づくり	森林エリア	中田 信好 (田淵行男記念館虫の会 日本鱗翅学会会員)	25名		調整済
6	7月	21日	(土)	からすの学校 信州 山の日イベント	第116回からすの学校 小島烏水・常念登山断念記を辿 る	水辺エリア	浅川 行雄 (地域環境研究室)	25名		調整済
7		28日	(土)	その他	スタッフと歩く樹木観察	水辺エリア	緑地スタッフ	25名		調整済
8		4日	(土)	市民会議主催	森林エリア 植物観察会	森林エリア	松田 貴子 安曇野市郷土博物館 学芸員	25名		調整済
9	8月	11日	(土・祝)	からすの学校 山の日イベント	第117回からすの学校 ツキノワグマ学習会	森林エリア	濱口あかり 信州ツキノワグマ研究会	25名		調整済
10		14日 15日	(火) (水)	その他	夏休みクラフト教室	水辺エリア	緑地スタッフ	20名		調整済
11	9月	15日	(土)	からすの学校	第118回からすの学校 葉でわかる樹木観察	水辺エリア	馬場 多久男 (元信州大学特任教授)	25名		調整済
12		23日	(日)	地域連携	ノルディック・ウォーク あづみの公園⇄烏川溪谷緑地	水辺エリア あづみの公園	緑地スタッフ	25名		調整中
13	10月	20日	(土)	からすの学校	第119回からすの学校 地層・地質からみた安曇野	水辺エリア	浅川 行雄 (地域環境研究室)	25名		調整中
14	11月	17日	(土)	からすの学校	第120回からすの学校 コケ類観察会～晩秋～	森林エリア	大石 善隆 (福井県立大学/農学博士)	25名		調整中
15		24日	(土)	その他	スタッフと歩く 晩秋の樹木観察	水辺エリア	緑地スタッフ	25名		調整中
16	12月	15日	(土)	からすの学校	第121回からすの学 地衣類学習会	水辺エリア	出川洋介 筑波大学 山岳科学センター 菅平高原実験所	25名		調整済
17	1月	6日	(日)	からすの学校 市民会議共催	斧入れの儀 ヒノキ伐倒体験	森林エリア	烏川溪谷緑地市民会議	25名		調整中
18	2月	9日	(土)	からすの学校	第122回からすの学校 ニホンジカの現状について	水辺エリア	長野県 環境保全研究所 研究員	25名		調整中
19		16日	(土)	その他	スノーシュー体験	水辺エリア	緑地スタッフ	20名		調整中
20	3月		(土)	その他	しいたけ原木コマ打ち体験と 花炭づくり	水辺エリア	緑地スタッフ	40名		調整中
	4・5月	4/30 ～5/14		地域連携	宿泊施設タイアップ オオルリウォーク観察会	水辺エリア	緑地スタッフ	～10名		未実施
	10月	6日 7日	(土) (日)		安曇野市環境フェア	安曇野市 堀金総合 体育館				予定
	1・2月	1/27 ～2/18			宿泊施設タイアップ スノーシューハイク	森林エリア	緑地スタッフ	～10名		
合計								500名		



信
州
の
山

長野県烏川溪谷緑地 第116回からすの学校

信州山の日 特別企画

小島烏水・常念登山断念記を辿る

開催のご案内

長野県烏川溪谷緑地では、「信州山の日」にちなみ公開学習会「小島烏水・常念登山断念記を辿る」を別添のとおり開催の運びとなりました。

ご多忙と存じますが、募集告知並びに取材・記事掲載の程よろしくお願い申し上げます。

※ 小島烏水（本名：久太）香川県生まれ 1873-1948 銀行員、著述家・登山家など多彩な面を持つ。1905年（明治38年）創立の（日本）山岳会の初代会長
1906年（明治39年）小島烏水はガイドの横澤類蔵と共に常念岳登頂を目指す、一ノ沢の途中で悪天候のため登山を諦め、浅川山から峠を越え中房へ下った紀行文が「日本アルプスの南半 山岳 第2年 第1号」に発表された。
この中で一ノ沢付近の様子が記述されている。
今回の学習会では紀行文に記された一ノ沢、浅川山付近を訪ね、散策・自然観察を行ないます。



★お問い合わせ先★

長野県烏川溪谷緑地 環境管理事務所 さ さ き 佐々木・ね は き 根萩・むろやま 室山
(指定管理者 一般財団法人 公園財団)

〒399-8211 長野県安曇野市堀金烏川2 6

TEL & FAX : 0263-73-0203

URL : <http://karasugawa.com>

E-mail : karasu@anc-tv.ne.jp



長野県烏川渓谷緑地 第116回からの学校

信州山の日 特別企画

こじま うすい 小島烏水・常念登山断念記を辿る

ぼつりと頬に嘗るものがある。
黒い雲が奔り下つて来る。
爺は喘ぎ々々、
後れて上つて来た。
旦那あ、
やなかましい天気になつて来たぞと。
情なさうに言ふ

あさかわ ゆきお

講師：浅川 行雄氏（地域環境研究室）

1905年(明治38年)創立の(日本)山岳会の初代会長 小島烏水(小島久太)が 1906年(明治39年)に常念登山を試みた際の様子を記した紀行文※に記された場所を訪ね、昔日を偲ぶとともに周辺を散策し自然観察を行ないます。

※「日本アルプス南半 明治40年 山岳第2年 第1号」

日時：平成30年7月21日(土) 予備日：翌日22日(日)
8:30~15:30(受付8:00~)

行程：往復約10km、安曇野市 林道北沢線上流を目指し、浅川山、大峠を往復します。(散策拠点までの往復をマイクロバスで移動します。)

集合場所：国営アルプスあづみの公園 穂高口駐車場(安曇野市穂高牧)

参加料：1,000円(※定員25名 事前申込制・先着順)

持ち物：昼食、飲み物、筆記用具、雨具など

お申し込み・お問い合わせ先

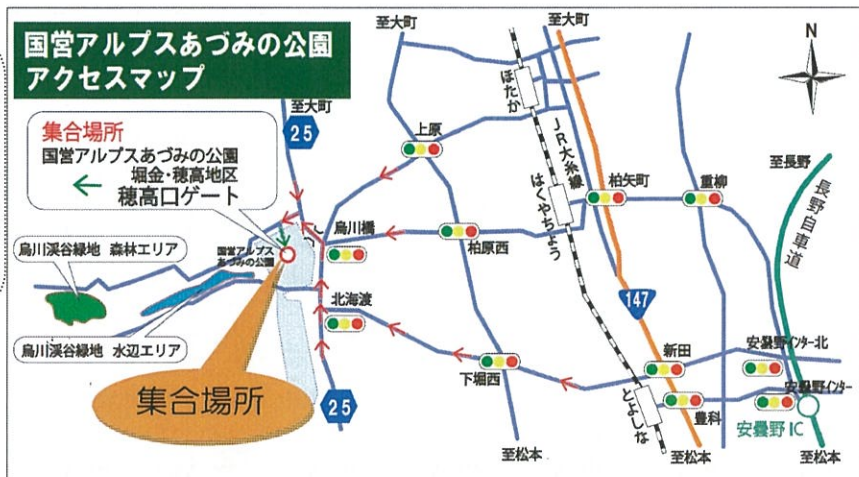
烏川渓谷緑地 環境管理事務所

TEL・FAX：0263-73-0203(8:30~17:15)

住所：長野県安曇野市堀金烏川26

E-mail：karasu@anc-tv.ne.jp

URL：http://karasugawa.com



主催：長野県烏川渓谷緑地
協力：烏川渓谷緑地市民会議

第36回全国都市緑化信州フェア 実施計画(概要版)

第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会

開催概要

開催概要

名称 第36回全国都市緑化信州フェア
愛称 信州花フェスタ2019 ～北アルプスの贈りもの～
開催テーマ 全国都市緑化信州フェア 開催テーマ
 北アルプスの麓から広がる、花と緑に包まれた、しあわせ暮らし
主催者 長野県、松本市、大田市、塩尻市、安曇野市
 公益財団法人 都市緑化機構
実行組織 第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会
開催期間 2019年4月25日(木)～6月16日(日) 53日間
会場 メイン会場 長野県松本平広域公園
 サブ会場 国営アルプスあづみの公園
 (稲金・穂高地区、大町・松川地区)
 ・長野県鳥川溪谷緑地

サテライト会場 主催4市で設定
 想定来場者数 50万人(メイン会場とサブ会場の合計)
入場方式 集客可能な有料催事を検討し、入場料は以下のとおりとします。
 メイン会場: 会場全体を囲った一律の入場料課金は行いません。
 サブ会場他: 現行と同様とします。

基本理念

信州は緑の国
 山々の雪を源とする清らかな水に育まれるみどり
 厳しくも豊かな自然を敬い、寄り添うわたしたちのいどなみ
 みどりに包まれた心豊かな生活
 しあわせが五感を満たしている
 この恵みを全国、世界のみなさまとわかちあいたい
 わたしたちはみどりのすばらしさを再認識し、伝え、
 うるおいのあるまちづくりを未来につなげていくため
 北アルプスを望むここ信州松本平で
 第36回全国都市緑化信州フェアを開催します
 (第36回全国都市緑化信州フェア基本構想より)

展開方針

体感

○信州の暮らしの素晴らしさを感じられ、楽しめるフェアとします
 ○信州の自然や風土を表現し、五感で感じる会場を設定します
 ○これからの暮らしにおける花緑の活用について提案し、体験できるフェアとします

創造

○様々な県民や団体が参加し、創り盛り上げ、発表する場を提供します
 ○新たな緑化技術や出展を通じた学びの場を提供します
 ○花緑に包まれたまちづくり、暮らしづくりの契機となる場になります

交流

○自然や暮らしなど信州の魅力を県内外に発信する場を提供します
 ○緑化に関わる様々な団体や個人が出会う場を提供します
 (第36回全国都市緑化信州フェア基本計画より)

ロゴマーク・応援キャラクター



メイン会場

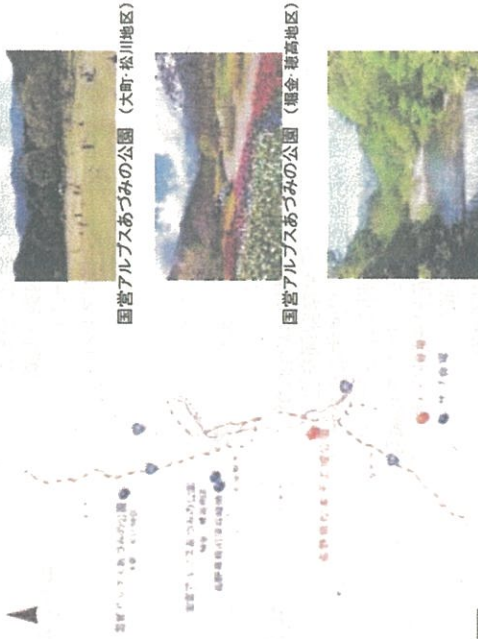
長野県松本平広域公園



ワイルドフラワー園

サブ会場

国営アルプスあづみの公園



国営アルプスあづみの公園 (大町・松川地区)

国営アルプスあづみの公園 (稲金・穂高地区)

長野県鳥川溪谷緑地

凡例: 会場区域

図中の名称は既存施設の名称

やまびこドーム

ワイルドフラワー園

メイン会場

～信州の自然や風土を体感し、信州の暮らしの素晴らしさを奥感できる会場～
春から初夏へとみどりの装いが大きくなる信州の2つの風景を、木々の芽吹きとともに500品種50万株の花緑で満喫する会場

第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会

信州ナチュラライフガーデン

信州で育まれた「ヒト」「モノ」「コト」から「みどり」で心と体が豊かになる暮らしの提案

F 信州彩園

野菜や果物を使った庭やハーブづくりが楽しめる庭など新たな緑の楽しみ方を提案

G 信州キッチン

緑に囲まれた空間で地域風土に根ざした素材を使った料理を提供し、長寿県信州の食文化をアピール

H 信州暮らしの庭

次世代を担う県内の造園家のアイデアや匠の技で、信州の草花等を活かした庭園を展開し、暮らしの中へ豊かなみどりの取り込み方を提案

I 信州リビングガーデン

県産木材を使用した木造建築と庭を一体的に展示し、信州の暮らしの魅力を感じ

J やまびこビーム

開・閉会式
全国都市緑化祭
花緑を使ったワークショップ等
各種催事・企画展

E こどもから大人まで楽しめる緑の遊び場

地域で活動している団体等の発表の場として、会場内の図書館を活用して生け花や盆栽の他、アート作品等を展示。また、子供の遊びをテーマにした出展。(10区画)

D 北アルプスと花の丘

県民や市民と協働で製作する15万株の大花壇

C 自治体による庭園出展

県外出展自治体の特徴を花緑や扉のオブジェ等で表現し、日本の真ん中信州から地域の魅力を発信(20団体)

B はじまりの花庭

早春の北アルプスをイメージした緑の壁面をシラカバやカラマツの苗木、出荷量全国一位を誇るカーネーション等で彩る。裏面は県歌制定五十周年を迎えた「信濃の国」の信州の風景を紹介

A 来場者をお出迎えするプロムナード

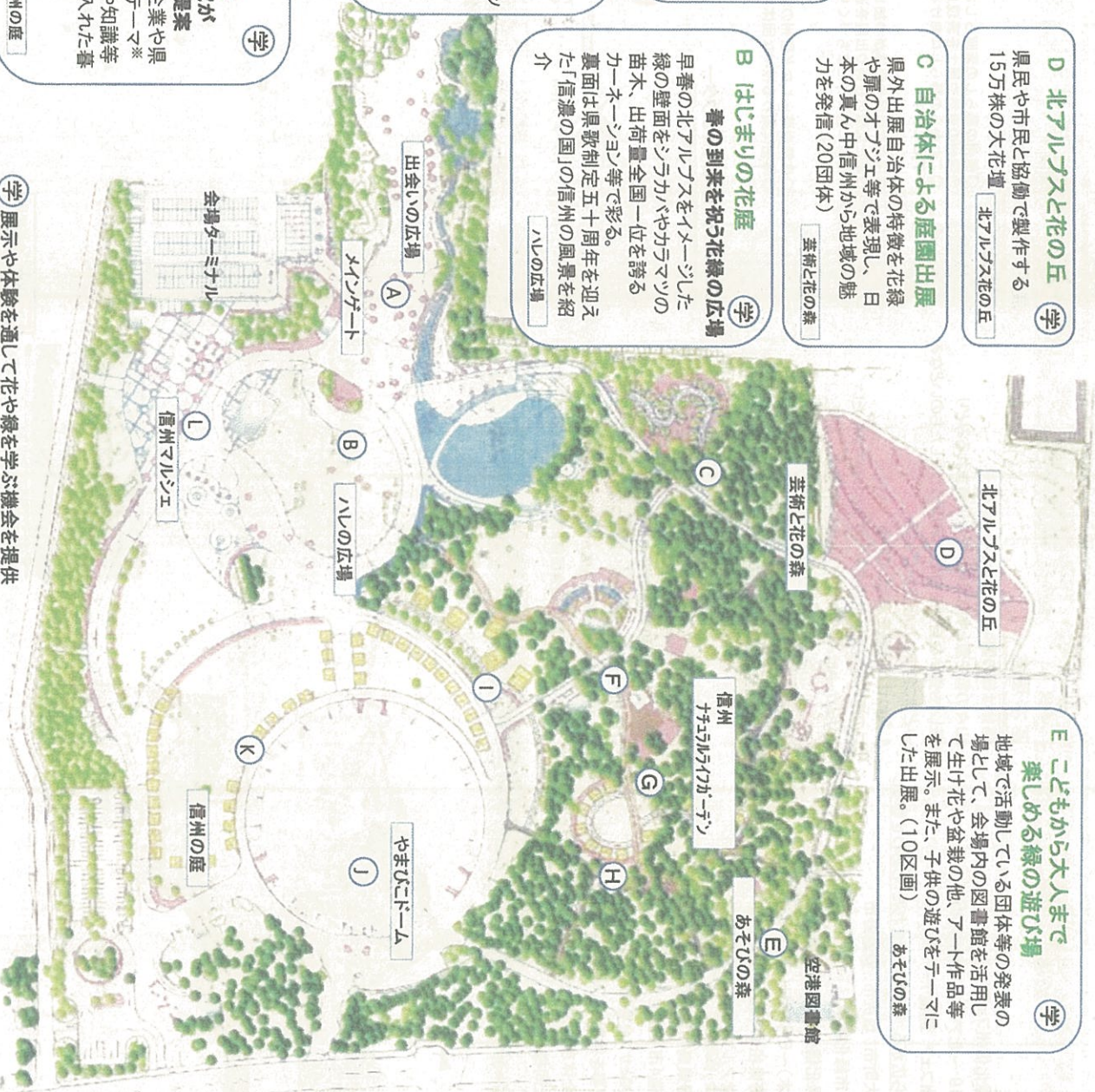
ケヤキの新緑とその足元を飾る色鮮やかな草花によりさわやかな「信州の春」を感じさせる修景で来場者を歓迎

L 信州を堪能するにぎやかフェスティバル

信州の「食」のほか、会場内の花緑の物販やフェアの公式グッズ、物産品を販売。また、サテライト会場、サテライト会場、花緑が楽しめる場所や県内観光地の情報を発信。(5ブース)

K 企業や学生による庭園出展

造園家等のみどりの専門家が様々な空間を提案
全国から造園等に関連する企業や県内の学校等が「信州の庭」をテーマに庭園を出展。高い技術力や知識等を発信し、信州の花緑を取り入れた暮らしを提案。(30区画)



学 展示や体験を通して花や緑を学ぶ機会を提供

サブ会場

暮らしに寄り添う信州の自然や風土と触れ合い、体験・学習できる会場。
国営公園2地区と県営緑地を魅力を活かし、地域と連携した信州の魅力を発信。

第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会

国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区)

■ 25万本のチューリップとユリの開花リレー



堀金・穂高地区のチューリップ



チューリップからユリへの開花リレー



堀金・穂高地区の春の風物詩となっているチューリップ花壇を拡大し、さらにユリと組み合わせ開花リレーを楽しめるよう演出

■ 信州のアーティスト達によるフラワースhow展&ライブペインティング

国内外で活躍する長野県出身の芸術家による園内の木々の枝や、アルプスを想起させる草花等を使ったアート作品を展示。さらに展示会場でライブペインティングを実施し、展示作品とのコラボレーションを実施



現代美術家、フラワースhowアーティスト
高橋 健一氏



園内の植物などを使ったフラワースhowアート



実施イメージ

■ 著名人と歩く北アルプス山麓 ファミリーハイキング

【鳥川深谷緑地選務専業】

山と関わり深い、著名人と一緒に楽しむハイキング。国営公園から鳥川深谷を散策し、身近な草花・自然に親しみながら、春の散策を開催

国営アルプスあづみの公園(大町・松川地区)

■ 公園では国内最大規模、チペタヌスを主役に据えたシエードガーデン



大町・松川地区の眺望



チペタヌス



ホスタ(ギボウシ)

北アルプスを望む林床に、アジア原産のクリスマスローズ「チペタヌス」とホスタ(ギボウシ)を中心としたシエードガーデン※を展示。

※日陰や半日陰の庭。日陰棟でも育つ植物には管理がしやすいものが多い。

■ 「趣味の園芸」フェア(トークショー&園芸講習会)



趣味の園芸トークショーの様子

「はちおうじフェア」イメージ

国営公園のフィールドで、全国にファンを持つ「趣味の園芸」の講師によるトークショーやガーデンの制作・園芸講習会などを開催。

■ 動き出す花のお絵かき



実施イメージ

紙に描いた植物の絵を映像化し、命が吹き込まれたように動き出す映像アプリを使ったお絵かき体験を実施

■ 信州の植物画家が描く 花の肖像展



国立科学博物館主催のコンテストでゴールドメダルを受賞した信州のポタニカルアーティスト作家の作品を展示。

※植物的な絵画。植物の姿を正確に繊細に描いたもの

サザ会場

鳥川渓谷緑地

■ 19種類を一度に楽しめる国内でも稀なメイグルコンテナガーデン



鳥川渓谷緑地は国内に約30種あるといわれるカエデのうち19種を見ることが出来る稀有な公園。様々な姿・形をみせるカエデを組み合わせた小さな庭が、来場者を出迎え。

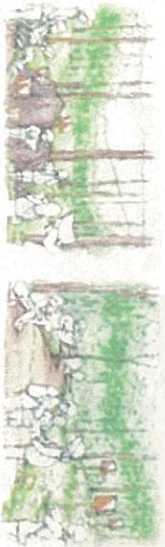
■ 植物写真ワークショップ
「目からうろこの植物写真術」

鳥川渓谷緑地で開催している人気講座、写真家いかりまさし氏による植物写真ワークショップをフェアの特別企画として実施。



実施イメージ

■ 緑の中で発見を楽しむトイルオリエンテering日本選手権を県内初招致



実施イメージ

子どもから大人まで、障がいの有無に関係なく自然の中で地図読みを競い楽しめるトイルオリエンテering*大会を開催。

*トイルオリエンテeringとは

オリエンテeringは設置されたチェックポイントを順番にできる対角(回る競技。トイルオリエンテeringは、安全に通れる小道をたどりチェックポイントを回り、各ポイントに積置かれたフラッグ(旗)の中から地図などの説明資料を精読し正確のフラッグを一つ選びながら制限時間内にゴールする競技。森さでは全く正確さが求められる。

安曇野の案内人がいざなう 春の里地里山ガイドツアー

【国営アルプスあづみの公園(穂高郡穂高地区)連携事業】

地元で活動する案内人による地域の特色や自然・文化についてガイドを受けながら歩く企画を開催



実施イメージ

サテライト会場

第36回全国都市緑化信州フェア実行委員会

地域主体の実行組織を立ち上げ、花緑を繋ぎ役に地域で交流を生み出し、活気ある地域づくりやまちづくりを繋げます。

松本市
次代を担う子ども、若者たちが参加する市民手作りによる企画



2017年に開催された全日本花いっぱい大会の理念を継承した市民企画を展開

【開催場所】

- ・JR松本駅から中央西公園(花時計公園)エリア
- ・都市公園スポーツ(あがたの森公園など)
- ・中央公民館(Mライオン)

大町市
まちの魅力やおもてなし力の向上による信濃大町フェアの増加



信濃大町駅から中心市街地の回遊や美と癒しの庭園と連携した企画を展開

【開催場所】

- ・大町駅前及び中心市街地周辺エリア
- ・ラ・カスタ ナチュラルヒーリングガーデン
- ・大町温泉郷

塩尻市
木育体験イベントやまちなか緑化の推進により、安らぎ空間を提供



地域住民参加による県産材を使用したベンチづくりのほか、地元高校生による緑化創出事業などを実施

【開催場所】

- ・小坂田公園
- ・公共施設スポーツ(JR塩尻駅・広丘駅など)

安曇野市
歴史・文化・風土、暮らしを背景とする安曇野らしさの発見と発信



市民参加によるインフォグラフィックの制作、ガートンデザインナー 吉谷桂子氏監修によるカーテンを制作。

【開催場所】

- ・安曇野市役所本庁舎周辺エリア
- ・三郷文化公園
- ・安曇野スポーツ(拾ヶ堰など)

観客誘致・広報宣伝計画

【展開方針】

花緑に包まれた信州の魅力伝え、集い、多くの信州ファンを獲得する

観客誘致

- ・県内や全国からの誘客
- ・花緑に関心がある方やこれからの緑化を担う子どもたちや花緑に関心がないう層の誘客

広報宣伝

- ・主催自治体をはじめ県内市町村、企業、団体等と協力連携した広報活動を展開
- ・マスメディアを活用した積極的な情報発信を展開

行権査

- ・花緑や花緑に留まらず、さまざまな観点からみよりの大切さを伝える催事を展開
- ・来場者が花や緑に触れ合える体験催事を展開

営業参加

- ・信州らしさを活かし、信州の魅力を伝える展開
- ・来場者のニーズに対応し、フェアの魅力を高める
- ・開催状況を考慮した出店形態を計画

【実施案】

○ 広報宣伝及び行権客等と連携した誘客

- 信州の雄大な自然と会場の花緑を併せた魅力の発信

○ 主催者による広報プログラム

- ・キャンペーン活動
- ・主催4市広報紙等

○ 有料媒体による広報プログラム

- ・テレビ放送
- ・ラジオ放送
- ・WEB、SNS等活用

○ 公式行事

- 主催者催事
- ・松本山雅FC
- マツチデー
- いわさきちひろ
- 企画展等
- ・花や緑の体験催事

○ メディアタイアップ催事

- ・民放TV4局とのタイアップイベント
- 一般タイアップ催事
- ・公募催事等
- ・ナイトイベント検討

○ 飲食関係

- ・信州キッチン
- ・フードコート
- ・キッチンカー

○ 物販関係

- ・公式グッズ
- ・物産品
- ・花や木の苗
- ・園芸用品 等



パネルタイアップ



営業参加イメージ

ひと

協働大花壇の製作

地域の小学生や企業団体が植付に参加して大花壇を制作

※植付け時期3回 総参加人数 約2,000人

ひと

信州グリーンフィンガーズ

フェア後に地域の都市緑化をリードする人材「信州グリーンフィンガーズ」を育成する講座(全9回)を開講

しかけ

信州グリーンジェアスポ

県内に点在する地域の緑化視点を「信州グリーンジェアスポ」として登録し、情報発信。

つなぐ

信州緑花ネットワーク

花や緑に係る個人・団体などによる、市民導型の協働ネットワーク組織「信州緑花ネットワーク」を立ち上げ、今後の展開を図る

会場運営・交通輸送計画

【展開方針】花緑と地域の魅力を連携させ、誰もが楽しめる会場を運営する

会場運営

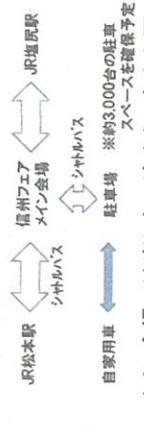
- ・情報センターを設置し、開催状況やイベント情報などを一元管理し提供
- ・来場者の満足度を高めるため、会場マップやエリア情報、会場内にある花緑の情報も統合したスマートフォンアプリの検討
- ・ボランティアの参加条件を幅広く設定し、より多くのボランティア参加の機会を創出し、来場者の安全確保を図るため警備本部を設置。



「あいさつフェア」イメージ

交通輸送

- ・シャトルバスを運行し、フェア会場への輸送体制を構築
- ・メイン会場では楽しさの演出と、広大な園内移動における利便性確保のため、パークトレインを運行
- ・駐車場の空き情報や渋滞情報などをリアルタイムに提供するウェブシステムを構築

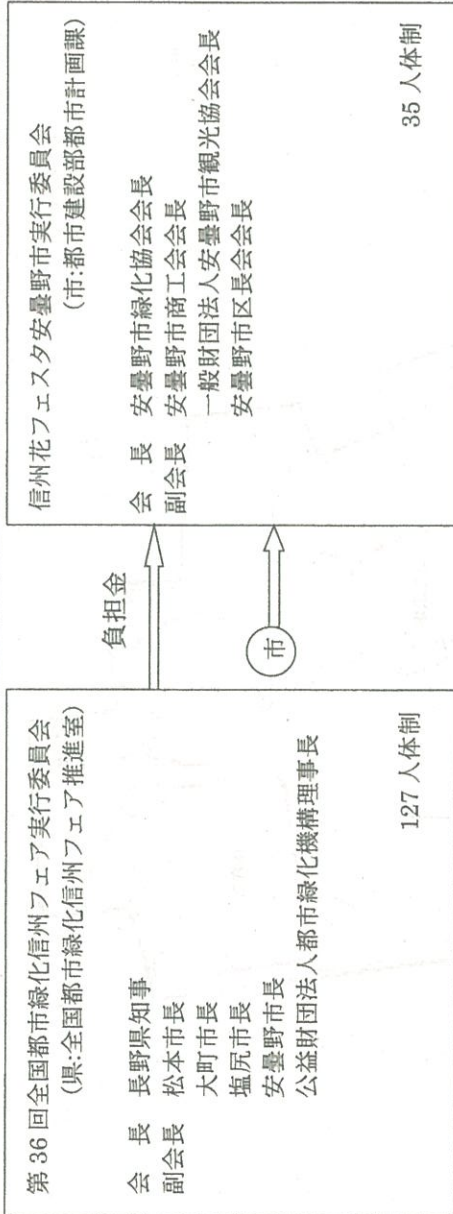


「よはまフェア」イメージ

第36回全国都市緑化信州フェア 安曇野市の取組み

信州花フェスタ安曇野市実行委員会

信州花フェスタ安曇野市実行委員会概要



(設置目的)

平成31年に市内において、第36回全国都市緑化信州フェア安曇野市サテライト会場等を展開し、都市緑化に関する意識の高揚、知識の普及等を図ることにより、都市緑化の推進や花緑をつなぐ役割としての交流を生み出し、緑豊かで活気あるまちづくりに寄与することを目的とする。

(事業)

- (1) サテライト会場等の企画、準備、開催及び運営に関する事業
- (2) その他上記目的を達成するために必要な事業



安曇野市サテライト会場等 開催概要

コンセプト

“安曇野らしさ”の発見と発信

「発見」とは

安曇野の歴史・文化・風土、人々の暮らし、北アルプスを背景とする風景、各団体の取り組みなど、今日に至るまでに築き上げてきたものを、来訪者には発見してもらい、市民には再確認してもらおう。

「発信」とは

今回の都市緑化信州フェアをきっかけに、新たな安曇野のレガシー（遺産）となるような取り組みを発信していく。

会場

- サテライト会場 安曇野市役所本庁舎周辺
三郷文化公園
- スポット会場 安曇野 IC・JR 駅前等市内各地

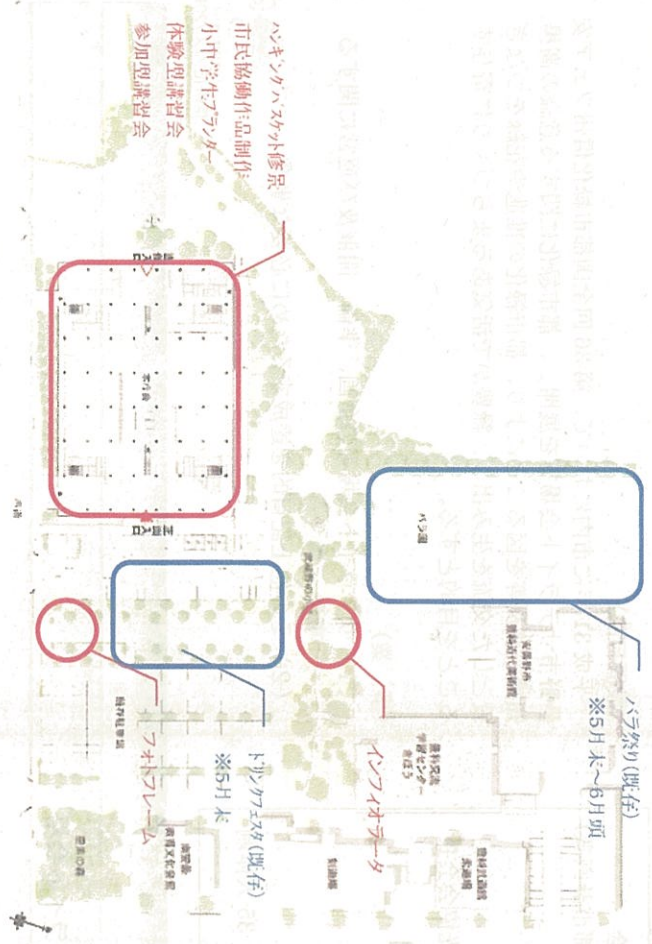
サテライト会場



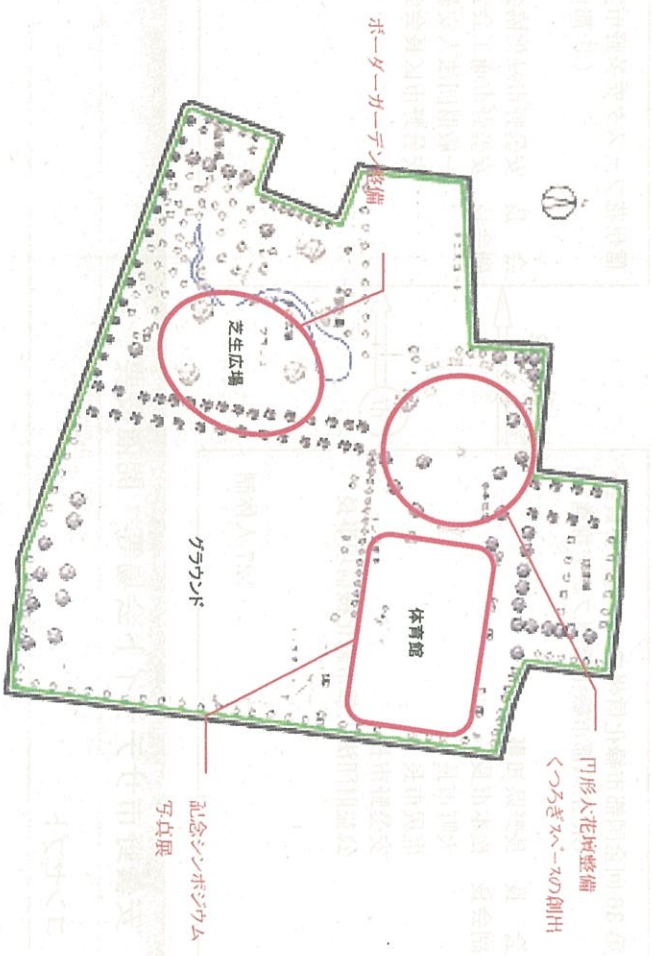
サテライト会場の概要 ~松本平広域公園(メイン会場)と国営アルプスあづみの公園(サブ会場)をつなぐ、“安曇野らしさ”を実感できる会場~

安曇野を訪れる人々を「おもてなし」し、安曇野を「体感」して、市民との「交流」の場となる会場

安曇野市役所本庁舎周辺会場



三郷文化公園会場



ハンギングバスケットによる修景
市役所本庁舎4階の展望デッキをハンギングバスケットで修景する。

市民協働制作作品の展示
市内認定こども園等に通う児童との協働により、大きなモザイクアートを展示する。

インフオオクターの制作
安曇野トリックフェスタや豊科近代美術館バラ園のバラ祭りと連携し、会場内にインフオオクターを制作する。

フォトフレームの制作
本庁舎東側(豊科近代美術館へのアプローチとなる石畳)に、インスタ映えするコンテナ花壇とフォトフレームを設置する。

小中学生によるプラント(体験型)講習会
市内小中学校(17校)の生徒によりプラント(体験型)講習会を開催し、市役所入口等に展示する。

体験型・参加型イベントの開催
本会場を訪れた方が体験できるイベント、また参加できる講習会を各種開催する。

円形大花壇修景とつるぎスペース
ガーデニングデザイナー監修による円形大花壇を整備し、来訪者をおもてなしする。また、花壇周辺には休憩スペースや飲食ブースを出店し、くつろげるスペースを創出する。

ホーダーガーデンの整備
隣接する三郷小学校の児童と連携し、芝生広場内にホーダーガーデンを整備する。

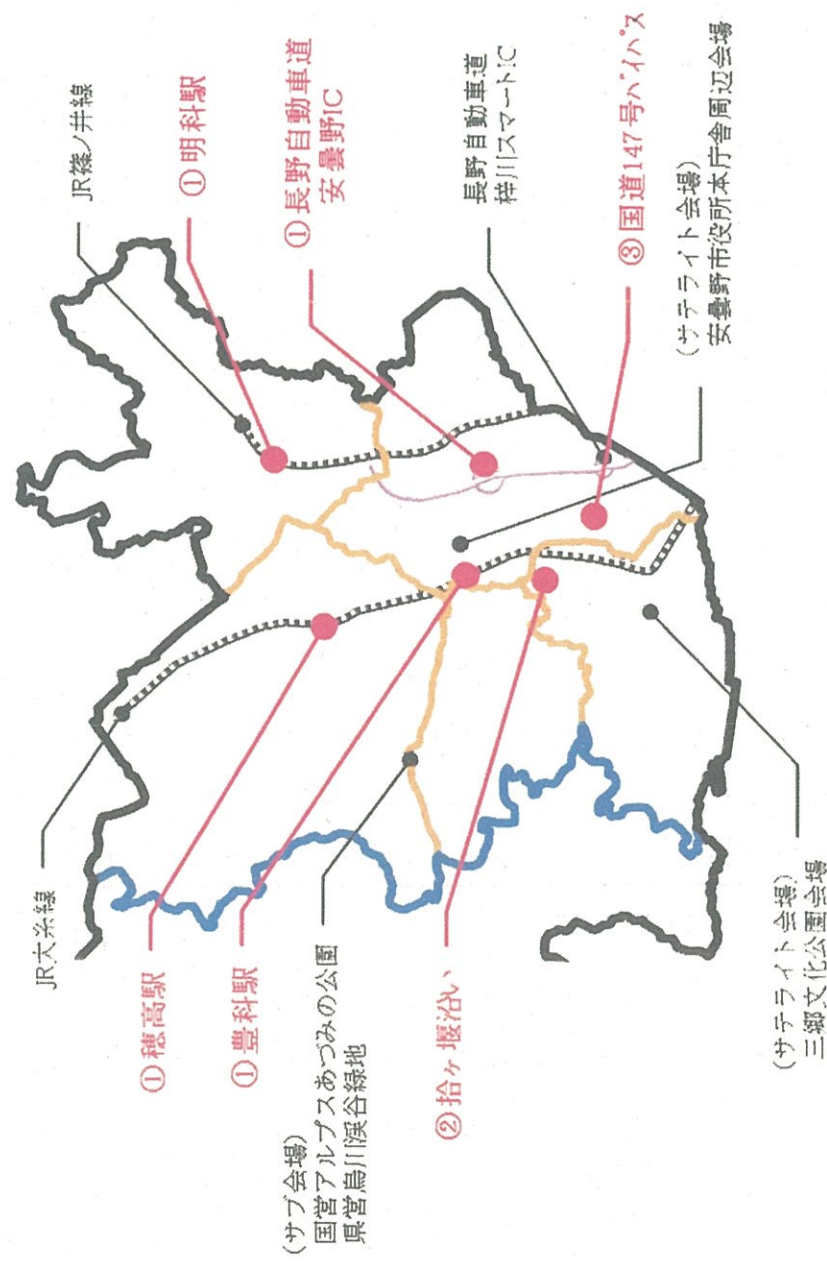
信州フェア記念シンポジウムの開催
フェア開幕後の週末(4月28日)に、記念講演及びパネルディスカッションの二部構成で開催する。

安曇野風景写真展の開催
来訪者に安曇野の四季を感じていただけるよう、花や緑をテーマとした市内の四季の風景の写真展を開催する。

記念シンポジウム写真展
来訪者に安曇野の四季を感じていただけるよう、花や緑をテーマとした市内の四季の風景の写真展を開催する。

スポット会場の概要

～市内各地で安曇野を感じる事ができる会場～



③信州安曇野 “水色のみち” 整備

国道 147 号バイパスの未拡幅用地を活用し、水色の花を中心とした多年草及び一年草を植え花修景を図る。
事業の実施にあたっては、長野県の地域発元気づくり支援金を活用する。

④未耕作地の再生と花修景

市内の未耕作地を再生させ、景観植物で花修景する。
SNS による情報発信を意識した整備を図り、レンゲや菜の花の播種を予定している。

⑤安曇野を満喫 見どころツアー

花や緑の関係した市内の見どころを案内する地図を作成し、サテライト会場等で配布する。
「市内企業のお庭拝見ツアー」「尾敷林・オーブングアードン巡り」等を検討中。

①安曇野 IC・JR 駅前おもてなし花修景

市内高校（4 校）との連携により、安曇野インターチェンジ前及び JR 主要駅前（豊科・穂高・明科）をコンテナ花壇により花修景する。
コンテナは、よこはまフェア及びはちおうじフェアで使用したコンテナを使用する。

②拾ヶ堰の緑化推進

世界かんがい施設遺産に登録され、芝桜による修景で多くの観光客が訪れている拾ヶ堰にて、芝桜の植え付け面積を拡張することで修景を図る。
事業の実施にあたっては、信州大学経済学部と連携し、クラウドファンディング（購入型）を活用し資金調達及び情報発信を図る。

⑥既存の緑化団体の支援

すでに緑化活動に取り組んでいる市内の各種団体に、フェアロゴマークを入れた看板を配布し各活動拠点に設置いただく。社会福祉協議会関係団体など、約 130 団体を想定している。
また、区や任意団体などの単位で、フェア開催に際し独自の取り組みを計画している方々に、資材提供などのサポートを行う。

(4) 全国都市緑化信州フェア開催に合わせたスタンプラリーについて

○目的

国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区、県営烏川溪谷緑地、及び安曇野市内の地域活性化のため、また、コミュニティ（共同体）の形成を図るため、平成31年度4月から6月に開催される全国都市緑化フェアの開催期間に併せ、あづみのパークコミュニティ会議として実施する。

○日時：平成31年4月25日（木）から6月16日（日）までの緑化フェア開催期間中

○内容【案】 愛称「信州花フェスタ2019スタンプラリーin安曇野」

【スタンプラリー方法】

- ・穂高温泉旅館、ペンション、ほりで一ゆ～の宿泊日帰り客にスタンプ台紙を配布する。

緑化フェア会場（①国営アルプス堀金・穂高地区、②烏川溪谷緑地、③三郷文化公園、④市役所本庁舎）でスタンプ台紙を応募箱の近くに置き、持って行ってもらおう。

台紙の配布状況によっては、更にメイン会場でも台紙を配布する。

- ・穂高温泉旅館、ペンション宿泊日帰り客と緑化フェア会場（①～④）に設置したスタンプを台紙に押印して集める。
- ・広告枠を設け、景品の提供や協賛金を募る。
- ・割引クーポンを設け、特典を付ける。

【応募条件・方法】

- ・スタンプは旅館、ペンションで1つと緑化フェア会場で1つの最低2か所は押印してもらう。（旅館、ペンションでの押印がないと抽選権なし。）
- ・台紙に必要事項を記入して、緑化フェア会場（①～④）内に設置する応募箱や直接参加宿泊施設に提出してもらい、緑化フェア終了後の2019年6月末頃に開催のあづみのパークコミュニティ会議の中での抽選で当選者を決める。

【景品】

- ・スタンプ3個以上コース（宿泊施設とフェア2会場以上で押印）計20名
 - 1位 特産物またはペア無料宿泊券 10名
 - 2位 宿泊割引券 10名
- ・スタンプ2個コース（宿泊施設とフェア1会場で押印）計30名
 - 1位 宿泊割引券
 - 2位 あづみ～ず・緑化フェアグッズ（ストラップ・バッジ等）
- ・平成30年秋頃までには他のあづみのパークコミュニティ会議構成団体（安曇野市他部署含む）から景品を手配する。
安曇野市特産物（米・りんご・ワサビ・ワイン等）などで内容を充実させる。
- ・穂高温泉旅館組合、ペンション協議会、ほりで一ゆ～の無料宿泊券・割引券。
- ・募集した広告主からも景品の提供を受ける。

【PR期間】

- ・インターネット（市HP・市観光協会他） 平成31年1月から

- ・ポスター 平成31年4月から
- ・新聞に記事を取り上げてもらう。
- ・SNSの活用。

○経費（予算案）

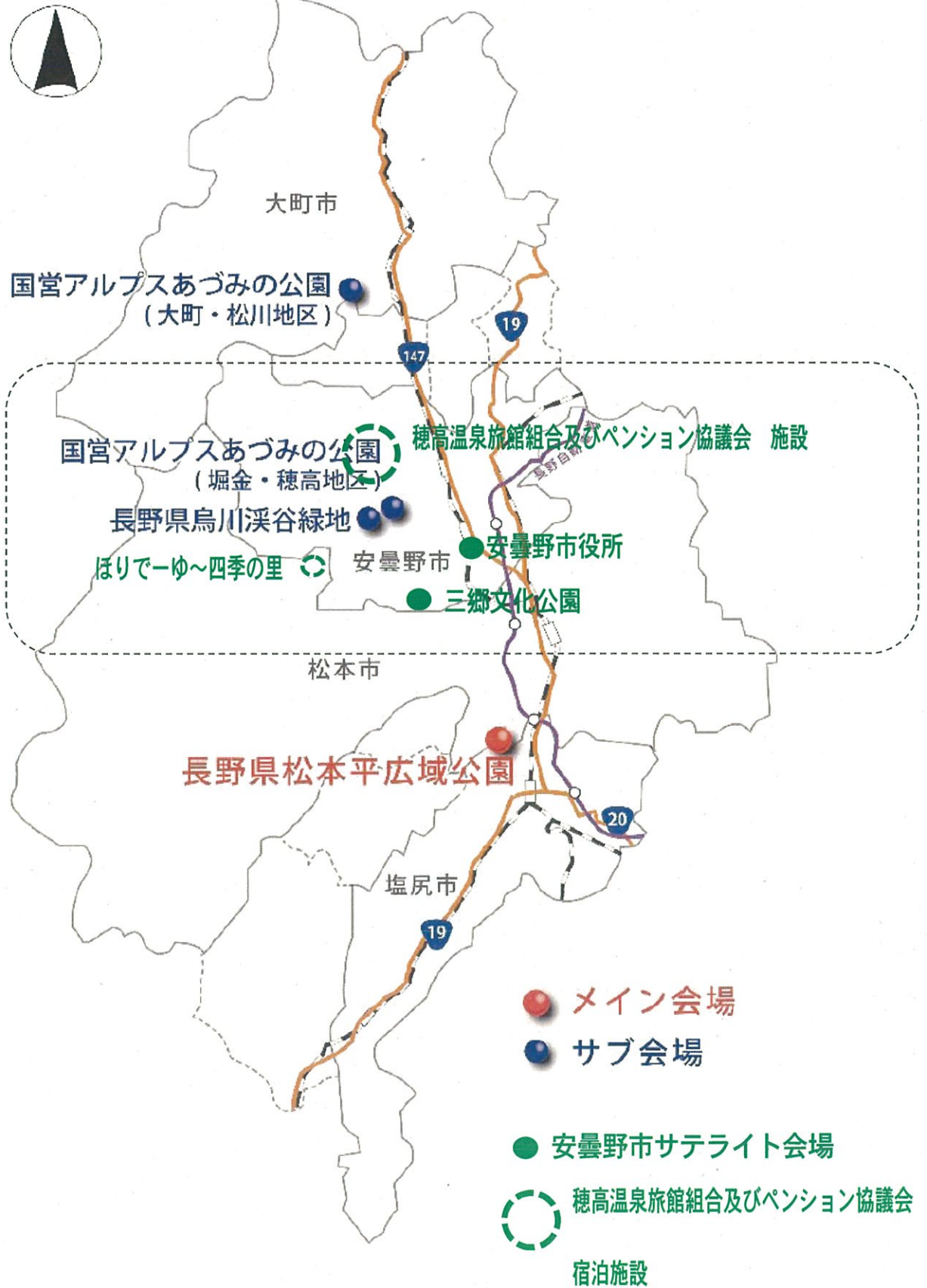
概算費用		
項目	数量	金額
・スタンプ台紙 A5（別紙案） （両面印刷・カラー） 裏面は地図広告クーポン等	25,000 枚 （メインサブで推定 50 万人のうち 5 %）	120,000 円
・ゴム印及びスタンプ台	40 個（3 個×4 会場）、旅館 10 個、ペンション 15 個）、予備 3 個	40,000 円（@1000 円）
・宿泊割引券郵送料	15 枚	1,380 円（@92 円・50 g 以内）
・景品案（あづみ〜ずバッジ）	30 個	4,500 円（@150 円）
・景品案（あづみ〜ずストラップ）	30 個	12,000 円（@400 円）
・郵送料	30 個	2,760 円（@92 円・50 g 以内）
・その他景品代	米、りんご、ワサビ、ワイン等	40,000 円
・郵送料	5 箱	10,000 円（@2,000 円）
・PR 用ポスター	B2 40 枚	30,000 円
・応募箱の包み紙	5 箱分	—
合計		260,640 円

○経費負担（案）

- ・国県市で全体の 2 分の 1。それを 3 分の 1 ずつ。
- ・その他団体（あづみ野穂高温泉旅館組合・安曇野ペンション協議会・市観光協会・市商工会・(株)ほりで一ゆ〜）で全体の 2 分の 1。それを 5 分の 1 ずつ。

国営アルプスあづみの公園	1/2	1/6
長野県烏川溪谷緑地		1/6
安曇野市		1/6
安曇野穂高温泉旅館組合	1/2	1/10
安曇野ペンション協議会		1/10
安曇野市観光協会		1/10
安曇野市商工会		1/10
(株)ほりで一ゆ〜		1/10

都市緑化フェアスタンプラリー 台紙、スタンプ設置場所 (案)

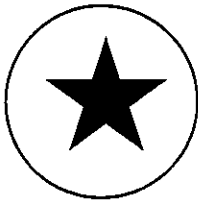


愛称「信州花フェスタ 2019 スタンプラリーin 安曇野」 台紙

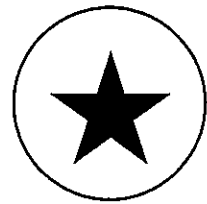
表面

国営アルプス堀金・穂高地区

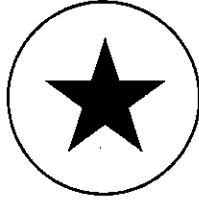
安曇野市本庁舎



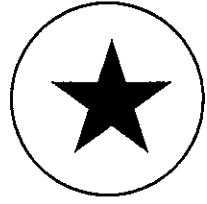
旅館宿泊施設



鳥川溪谷緑地



三郷文化公園



フェア会場地図
及び
応募対象宿泊施設名称

スタンプラリーのルール

実施期間 2019年4月25日（木）から2019年6月16日（日）

応募方法 安曇野市内の緑化フェア会場及び旅館宿泊施設を巡り、スタンプラリー台紙に希望コース分のスタンプを集め、下記に必要事項を記入し、フェア会場に設置の応募箱に入れるか、直接参加宿泊施設に提出する。

抽選 緑化フェア終了後にスタンプラリー実施主体「あづみのパークコミュニティ会議」において厳正に抽選する。

当選発表 当選者の発表については、景品の発送をもって代えさせてもらう。氏名は安曇野市HPに掲載する。

注意事項 各会場・旅館宿泊施設とも休館日・休園日・定休日はスタンプラリーを開催しない。

応募コース・景品紹介

○スタンプ3個以上コース 20名

<p>品名・写真</p>

○スタンプ2個コース 30名

<p>品名・写真</p>

<p>応募者必要事項記入欄</p>

<p>景品提供者広告枠 割引クーポン枠</p>
